

2009年度  
新潟大学教育学部 年報

THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

**ANNUAL REPORT**





# 目 次

## 1 イベント・カレンダー

- 1. 1 教育学部…………… 1
- 1. 2 附属学校…………… 2

## 2 特色ある教育活動

- 2. 1 教育学部における体験的カリキュラムの概要…………… 4
- 2. 2 フレンドシップ実習…………… 6
- 2. 3 入門教育実習…………… 7
- 2. 4 研究教育実習…………… 9
- 2. 5 学習支援ボランティア派遣事業及び関連事業…………… 11
- 2. 6 教育実習…………… 12
- 2. 7 介護体験…………… 13
- 2. 8 「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」の開講…………… 15
- 2. 9 インターンシップ
  - ・学校インターンシップ…………… 16
  - ・企業インターンシップ…………… 17
- 2. 10 各課程の特色ある教育活動…………… 21
- 2. 11 高校生対象講義…………… 38
- 2. 12 中・高校生及び保護者の大学見学…………… 39

## 3 就職支援

- 3. 1 教員志望学生向け特別講座…………… 40
- 3. 2 公務員志望学生向けガイダンス…………… 41
- 3. 3 一般企業向けガイダンス…………… 42
- 3. 4 臨時教員志望者への就職支援…………… 43

## 4 学部FD …… 44

## 5 地域貢献

- 5. 1 12年研修…………… 45
- 5. 2 市民・教員を対象とした公開講義…………… 47
- 5. 3 教育委員会との連携協定…………… 48
- 5. 4 新潟大学免許法認定公開講座…………… 49
- 5. 5 講演会・演奏会・発表会など…………… 50
- 5. 6 委員等就任状況…………… 51

## 6 国際交流

- 6. 1 「日中・教育フォーラム in 珠海」の共催 …… 55

6. 2	北京師範大学珠海分校ならびに北京聯合大学国際交流学院との「学生交流に関する覚書」による留学生枠の拡大	55
6. 3	学部教育の国際化事業	56
6. 4	学術交流（研究者の派遣・受入れ）	59

## 7 附属施設の活動

7. 1	附属新潟小学校	63
7. 2	附属新潟中学校	66
7. 3	附属特別支援学校	69
7. 4	附属長岡小学校	72
7. 5	附属長岡中学校	76
7. 6	附属幼稚園	80
7. 7	附属教育実践総合センター	83

## 8 外部資金

8. 1	科学研究費補助金	85
8. 2	奨学寄付金	86
8. 3	受託研究・受託事業	86

## 9 教育・研究業績

・研究者一覧	88
--------	----

### [巻末資料]

入学状況（学部）	117
入学状況（大学院）	118
就職状況	119
附属学校在学状況	120

# 1. イベントカレンダー

## 1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	6日	新潟大学入学式, 学部新生保護者懇談会
	7日	大学院教育学研究科新生ガイダンス
		学部学年別ガイダンス (1年次,3年次)
8日	学部学年別ガイダンス (2年次,4年次)	
6月	1日	新潟大学永年勤続者表彰式
	22日	新潟大学名誉教授称号授与式
7月	18日	学部後援会理事会・総会
	25日	教員免許状更新講習 (～12/26)
	27日	免許法認定公開講座 (～12/27)
8月	1日	全学同窓会と新潟大学との懇談会
	7日	教職12年経験者研修 (～8/24)
	9日	新潟大学オープンキャンパス (主に受験生向け) (～8/10)
	11日	学校図書館司書教諭講習 (～8/28)
9月	9日	大学院教育学研究科入学試験
	11日	長岡市教育委員会との連携推進会議
	24日	大学院教育学研究科入学試験合格者発表
10月		新潟大学Week (～10/18) ※参加型イベント:五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう, 「なんでもスポーツフェスティバル」いろいろなスポーツの体験と交流 展 示 ・ 鑑 賞 : 西区DEアート, みゅーじっくろさき2009:最終公演「0才からのコンサート」, パフォーマンスアート「絆」, ワッ書イ!
	12日	
	26日	三条市教育委員会との運営協議会
11月	21日	推薦入試 (健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程)・社会人特別入試入学試験 養護教諭特別別科入学試験
	26日	教育実習運営協議会
12月	8日	推薦入試 (健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程)・社会人特別入試入学試験合格者発表 養護教諭特別別科入学試験合格者発表
	12日	推薦入試 (学校教員養成課程) 入学試験
	17日	新潟市教育委員会との教育懇談会
1月	16日	大学入試センター試験 (～1/17)
	21日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
	23日	全学同窓会と新潟大学との懇談会・懇親会
2月	1日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験
	8日	推薦入試 (学校教員養成課程) 入学試験合格者発表
	15日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験合格者発表
	25日	新潟大学入学試験 (前期日程) (～26日)
3月	10日	新潟大学入学試験 (前期日程) 合格者発表
	12日	新潟大学入学試験 (後期日程)
	23日	新潟大学入学試験 (後期日程) 合格者発表
		新潟大学卒業式・学位記授与式・修了式

## 1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》		《 附属新潟中学校 》		《 附属特別支援学校 》		
月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	1学期始業式・入学式	8	着任式, 1学期始業式	8	新任式, 1学期始業式
			9	入学式	9	入学式
			13	新入生歓迎会	10	新入生歓迎会(中学部・高等部)
			21	全国学力・学習状況調査	15	修学旅行(高等部3年)(~17日)
					16	校内宿泊学習(高等部2年)(~20日)
5	1	全校参観日	1	授業参観	8	遠足(小学部)
	23	附属大運動会	16	ときわ体育祭	10	卒業生を囲む会(高等部)
					30	運動会
6	2	中条自然教室(4年)(~3日)	2	市内各種大会(~3日)	8	春期教育実習(~19日)
	8	春季教育実習(~19日)	8	春季教育実習(~19日)	26	学校説明会①
	12	全校五頭登山			29	就業体験期間(高等部)(~7月9日)
7	12	北京師範大学実験小学校訪日(~13日)	1	陸上地区大会(~2日)	1	学校説明会②
	14	立山自然教室(6年)(~17日)	7	各種地区大会(~8日)	2	校内宿泊学習(中学部)(~3日)
	21	佐渡自然教室(5年)(~23日)	17	通信陸上新潟県大会	24	終業式
	24	1学期終業式	24	1学期終業式	29	サマースクール(小学部)
	28	市陸上記録会	27	県総合体育大会(~28日)	30	サマースクール(中学部)
				30	チャレンジツアー(高等部~31日)	
8	4	新潟市水泳記録会	5	北信越大会(~6日)		
	28	2学期始業式	19	県内附属学校園合同部会		
			25	2学期始業式		
9	7	2年次観察参加実習(~11日)	7	2年次教育実習(~11日)	1	2学期始業式
	17	クロスカントリー in はの森			10	校外宿泊学習(中学部)(~11日)
	24	全校参観日・全校除草			17	校内宿泊学習(小学部3~6年)(~18日)
10	24	附属ミュージアム	2	秋の教育研究発表会	5	交流学习発表会(中学部)
	24	秋季教育実習(~11月6日)	9	市総合体育大会	10	トキめき新潟大会開会式参加
			24	秋期教育実習(~11/6)	23	第32回特別支援教育研究会
				26	秋期教育実習(~11月6日)	
11	21	附属ミュージックステーション	3	演劇発表会	21	すなやま祭・同窓の集い
			8	学校説明会	30	平成22年度入学者選考検査
			21	音楽のつどい		
12	5	新1年生入学選考(8日)	1	生徒会立会演説会	1	就業体験期間(高等部)(~10日)
	18	2学期終業式	3	全学年懇談会(~8日)	14	鑑賞教室
			12	入学選考考査(結果発表18日)	22	2学期終業式
			22	2学期終業式		
1	12	3学期始業式	22	冬の研究発表会	8	3学期始業式
			26	3年進路懇談会(~28日)	18	スキー・そり教室(高等部)
					22	餅つき大会(中学部)
					25	そり教室(小学部)
2	4	初等教育研究会(~5日)	2	2学年沖縄の旅(~5日)	1	就業体験期間(高等部)(~26日)
	24	編入試験	18	1学年東京巡検(~19日)	8	スキー・そり教室(中学部)
	26	六年生を送る会			10	学習発表会(高等部)
3	1	高学年スキー授業(~2日)	2	同窓会入会式	5	卒業生を送る会(小・中・高等部)
	18	3学期終業式	8	第62回卒業証書授与式	18	卒業証書授与式
	19	卒業証書授与式	10	公立高校入学試験	19	3学期終業式
			19	3学期終業式		
			25	離任式		

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
8	着任式、1学期始業式、入学式	8	着任式、1学期始業式、入学式	8	1学期始業式
17	全校学習参観日	9	2・3年PTA、学校運営説明会	10	入園式
20	全校仲良しの会	14	身体測定	21	こんにちはの会
21	全国学力・学習状況調査	24	PTA・後援会総会		
		27	学年活動（遠足）		
8	避難訓練①（校園合同）	8	3校園合同避難訓練	15	春遠足
14	発見遠足	13	生徒総会	23	土曜家族参加日
24	日曜参観日	22	教育研究中間検討会		
		31	PTA3校園ソフトボール大会		
5	緊急連絡網・メール配信テスト	8	春季教育実習（～19日）	3	文化部講演会
8	春期教育実習（～19日）	9・10	市内各種大会	8	春期教育実習（～19）
9	初任者研修①	27	運動に親しむ会（PTA行事）	12	プール開き
25	4年生サマースクール（～26日）			26	親子バス遠足
1	学習参観（～2日）	1・2	中越陸上大会	7	七夕会
10	栖吉川フェスティバル	4・5	地区PTA	8	動物ふれあいの日
24	1学期終業式	7・8	中越各種大会	17	1学期終業式
30	5・6年自然教室（～8月1日）	22	成果を語る会		
		25	中越吹奏楽コンクール		
		27・28	県総合体育大会		
7	親善水泳大会	5・6	北信越大会		
26	2学期始業式	10	県吹奏楽コンクール		
		17	全国中学校体育大会（～25日）		
		20	県内附属学校園合同部会		
		26	抱負を語る会、授業開始		
		30	PTA校園整備活動		
5	校園大運動会	5	校園大運動会	1	2学期始業式
5	観察参加実習（～11日）	7	観察参加実習（～11日）	5	校園合同運動会
8	初任者研修②	12	西関東吹奏楽コンクール	7	観察参加実習（～11日）
15	親善陸上大会	18	校園合同学校評議員会	30	園内探検
18	避難訓練②	19	学校説明会		
24	研究会事前打合せ	24	研究事前検討会		
		25	ニューヨークフィル公演		
16	教育研究協議会	2	トキめき新潟国体観戦	2	探検遠足
26	秋期教育実習（～11/6）	9・10	新人各種大会	16	校園合同研究会
30	マラソン記録会	16	研究協議会（長岡3校園合同開催）	21	秋のお楽しみ会
		26	秋期教育実習（～11/6）	27	柿もぎ柿さわし
				28	家族参加日
2	願書受付開始	4	音楽発表会（長岡市リリックホール）	6	収穫ふれあい祭り
11	親善音楽会	13	全附連北信越協議会（長野県松本）	21	さくひんてん
27	願書受付締切	18	生徒会役員選挙		
		20	進路説明会		
2	仲よしフェスティバル	1	学友会引継総会	4	外国の方とのふれあい会
5	入学選考検査	1	3年三者面談（～4日）	17	2学期終業式
6	校内音楽会	11	A F S 東アジア青少年国際交流		
8	選考検査結果発表	19	入学者選考検査（結果発表22日）		
9	個別懇談（～10日）	25	成果を語る会		
22	2学期終業式				
8	3学期始業式	8	抱負を語る会	8	3学期始業式
14	学習参観（～15日）	18	県スキー大会（～20日）	12	お正月お楽しみ会（～14日）
20	避難訓練③	28・29	1年研修旅行（東京）	26	そり遠足
22	3・4年スキー（第2回・29日）				
12	一日入学	3	新入生・保護者説明会	3	豆まき会
15	学習参観（～16日）	17	卒業生を送る会	19	1日入園
22	スノースクール（～23日）	23	2年修学旅行（～26日）沖繩平和学習		
4	ありがとう仲良しの会	2	同窓会入会式	9	お別れ会
18	3学期終業式	5	第62回卒業証書授与式	15	3学期終業式
19	110回卒業証書授与式	10	公立高校一般選抜学力検査	16	第109回保育証書授与式
		19	3学期終業式		
		25	離任式		

## 2 特色ある教育活動

### 2.1 教育学部における体験的カリキュラムの概要

#### 新潟大学教育学部（および大学院教育学研究科）に

No.	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教育実践総合センター「フレンドシップ実習」研究会	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教育実践総合センター 教育実習研究会	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	観察参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 (現在の体制による実施開始年度)	(1) 附属学校園における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
4	教育実習 (主専攻、副専攻)	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。
5	研究教育実習	4年次生	教育実践総合センター 教育実習研究会	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
6	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	学校ボランティア派遣事業委員会	平成15年度	小学校、中学校、養護学校における教育・学習活動の支援を行うことを通じて、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
7	子どもふれあいスクール	特に設定しない	教育実践総合センター	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。	
8	見附市教育委員会「新潟大学連携 学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	学校ボランティア派遣事業委員会	平成18年度	見附市立小・中・養護学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。	
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	学校ボランティア派遣事業委員会	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。	
10	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。



## おける「体験的カリキュラム」の概要（2009年度）

実施時期、期間	関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
通年	公民館、学童保育施設、少年センター等	50名	48名	「教育実践体験研究Ⅰ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)「教員養成学部フレンドシップ事業」(文部省(当時)、平成9年度開始)に連動する授業科目として設定(「教育実践体験研究Ⅰ」)。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2)平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	90名	106名	「教育実践体験研究Ⅱ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2)平成11～14年度においては、既存の授業科目(教育実践研究関連科目)により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
9月、5日間	附属学校園(6校)		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計329名	「教育実習事前・事後研究」(2単位、学校教員養成課程は必修)の一環を構成)	(1)教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
春期・秋期、各2週間、総計4週間	附属学校園、協力校園 総計(のべ)220校		学校教育課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計(のべ)781名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	(1)詳細については、「教育実習のための資料集」(平成20年度版)参照。
通年	附属学校、協力校	特に設定しない	117名	各教科において多様な形で設定。	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」(3年次対象)および「総合教育実習」(4年次対象)を実施。 (2)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
通年	新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立養護学校、小学校、中学校	109校、259名(派遣要請総数)	64校、116名(新潟青陵大学からの派遣数は含まない数)	「教育実践体験研究Ⅲ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)平成17年度より新設。	(1)平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2)平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成(カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」)。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5)平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定(平成17年6月締結)による事業の一環を構成。 (6)平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7)平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。
通年	新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	43名(教育学部27名、他学部16名)	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計9校(関屋、新潟、栄、笹口、坂井東、新通、東青山、五十嵐、西内野)に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
8～9月、1～2月	見附市教育委員会 見附市立小・中・養護学校	特に設定しない	69名(のべ190名)	特に設定しない	(1)見附市立見附小学校、見附第二小学校、上北谷小学校、田井小学校、名木野小学校、新潟小学校、今町小学校、見附中学校、南中学校、今町中学校、西中学校(総計11校)に対して、主として、8月～9月に実施された自然教室、水泳指導、補充学習(国語、算数等)等に学生を派遣した。
通年	三条市教育委員会・学校教育課、三条市立小学校	特に設定しない	4校、5名	特に設定しない	(1)派遣先は、三条市立裏館小学校、三条小学校、井栗小学校、第三中学校(総計4校)。 (2)この他、「三条市科学フェスティバル」(8月)、三条市中学校音楽祭(11月)、子育て支援課「放課後子ども教室」に対しても、それぞれ、10名、3名、8名(のべ22名)の学生を派遣した。
通年	附属学校園、協力校園	特に設定しない	12名	「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、選択必修、2単位)	(1)平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」(研究科共通科目、必修、2単位)との連動による実施。 (2)平成20年度におけるカリキュラム改革により、連動する授業科目を現在の形に変更。 (3)平成20年度、21年度においては、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

## 2.2 「フレンドシップ実習」の概要

「フレンドシップ実習」(授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位)は、今年度で13年目を迎えた。おもに、1,2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。同様に1年次学生を対象とする、「入門教育実習」が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行った。

前年度は計7コースが開設されたが、今年度は担当教員の公務等との関係で、2コースが休止となった。このため、計5コース(48名)を開設した。大学の講義等に支障が生じないように、原則、週末・長期休業中を利用してコース毎に実習を開催・実施した。その成果報告と交流会を12月5日(土)に開催した。各コースの受講者全員が集まり交流・発表することになっていたが、連絡の不十分さ等のために欠席者が見られた。下記は、今年度の各コースの活動概要である。

表 「フレンドシップ実習」 コース別活動内容等一覧

コース名	担当教員	活動時期	主な内容	活動場所	参加学生
1. 「合宿通学」体験コース	岡野 勉	大学夏季休業中集中開催	「合宿通学」体験に参加し、子どもとの交流を深める	・新潟市大畑少年センター	4名
2. グループ体験コース	松井賢二	大学夏季休業中集中開催	ひまわりクラブに出向き子どもたちと交流を深める	・西内野小学校 ・西内野コミュニティーセンター	12名
3. 自然科学実体験コース	中村文隆	週末に定期的開催	星空ファクトリーとの協働により、地域の小学生のために科学体験活動講師を補助	・見附市公民館	13名
4. 野外活動体験コース	大橋正春(宮蘭衛)	9月から11月の終末に集中的開催	ウォークラリー、焼きそば作り、キャンプ、内野朝市体験の付き添いを通して、子どもとのふれあい活動に取り組む	・新潟大学キャンプ場 ・内野駅周辺	14名
5. 「子どもふれあいスクール」体験コース	神林信之	6月頃から終末に定期開催	子どもふれあいスクールに参加し、子どもたちに自由な遊びを提供する。	・西内野小 ・新通小	5名
全体発表会	鈴木 恵 岡野 勉 松井賢二 神林信之 宮蘭 衛 岸本賢一	12月5日午前中に開催	・各コースの活動と振り返り発表 ・3グループに分かれての討論会 ・全体振り返り	教育学部大講義室他	36名(都合により欠席12名)

3年前から、成果報告・交流会の運営と報告書編集を学生主導で運営する体制をとるようにした。その体制が受け継がれ、軌道に乗りつつある。各コースから成果報告・交流会実行委員と報告書編集委員をそれぞれ選出し組織した。成果報告・交流会実行委員会では、数回の会議を開催して当日の運営に臨み、全体司会、コース交流分科会司会等を手際よく行った。ただ、今年度は全体責任者(宮蘭)の都合で、事前の会合を十分組織できなかつたために、学生が自主的に企画を検討・準備するプロセスが弱かつた。次年度に改善を要する課題である。

成果報告・交流会を受けて、報告書編集委員会が本格的に活動を開始した。編集委員長を中心に、受講者全員及び指導教員にふり返りレポート原稿を依頼し、編集作業を行った。と開全体発表会・意見交流会の準備・運営、報告書編集作業に取り組んだ。尚、本年度の活動報告は、以下の報告書に掲載している。新潟大学教育学部「フレンドシップ実習」研究会発行『平成21年度新潟大学フレンドシップ事業報告書-社会教育施設・団体と連携する「体験的カリキュラム」の開発研究～第13年次研究～』(「フレンドシップ実習」学生編集委員会編集、平成22年3月)(文責 宮蘭衛)

## 2.3 「入門教育実習」－1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

### 1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程の1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、教育実践総合センター教育実習研究会により、課程共通の選択科目「教育実践体験研究Ⅱ」(2単位)として実施されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加、観察(総計3回)を行うこと、②活動の内容、成果をレポートにまとめ、報告、発表すること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。目的は、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促すこと、②専門教育を受けるための準備段階を形成することにある。

なお、この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて、平成21年度は11年めにあたる。平成21年度において、教育実習研究会は、教育実践総合センター担当教員4名、学部担当教員29名、附属学校教員12名、総計45名によって構成されている。

### 2. 概要

4月に、学年別ガイダンスでの説明、独自の説明会を行い、受入学生を確定した。出席者は138人、希望者は131人、受入者は106人であった。なお、この実習はコース(定員10名)が活動の単位となる。コースは、学生(10～12名程度)、学部教員(3名)、実習校担当教員(1～3名)によって構成される。次に、平成21年度において設定したコース名および受入学生数を示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	12名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	12名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	12名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	11名
(D) 幼稚園訪問コース	11名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名	総計106名	

上記の体制により、学生は、5月から11月にかけて、実習協力校から提供された教育活動(全3回)に参加した。教育活動は、1日学校訪問、授業観察、運動会、遠足、自然体験教室、文化祭等であり、宿泊を伴う活動も含まれている。

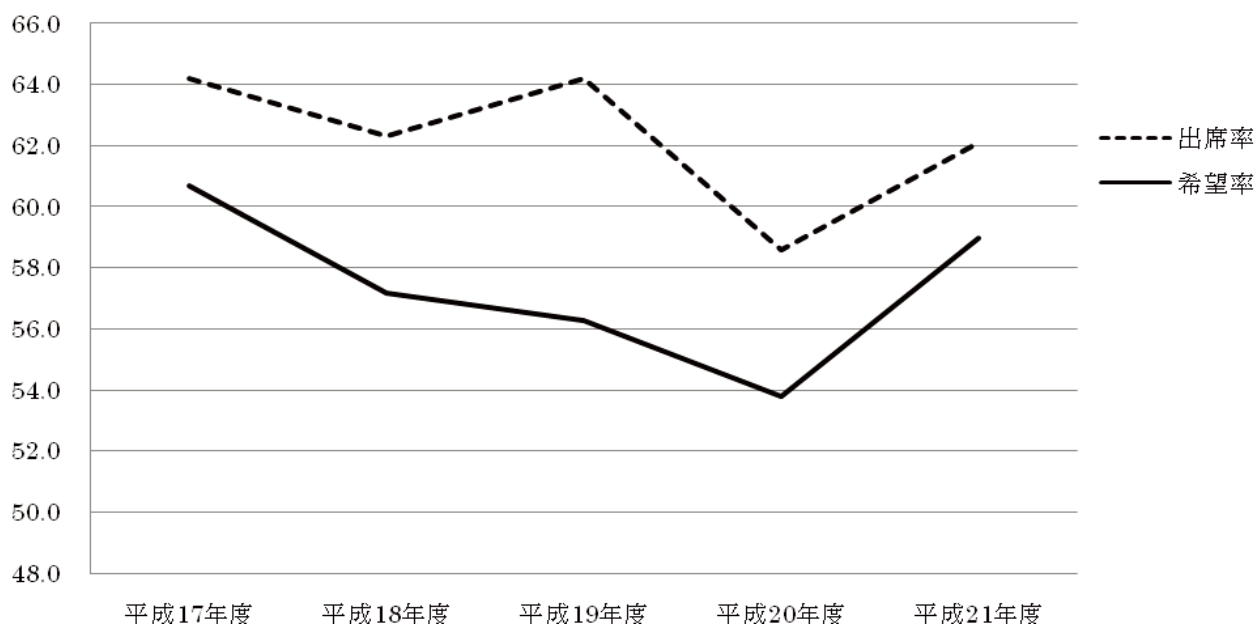
教育活動への参加が終了した後、学生は活動に関するレポートを作成・提出し、担当教員からの指導を受けた(全3回)。これらの活動を基礎として、12月には報告会を開催し、活動成果の報告を行った。報告会には、参加学生、学部の担当教員に加え、実習協力校園の担当教員4名、過去の履修経験者1名が出席し、学生の報告に関する講評を行った。1月には、学生は、これらの活動すべてを振り返って、最終レポートを作成・提出し、1年間の活動を終えた。

### 3. 特徴

平成20年度との比較によれば、受入学生数については103人から106人へと3名の増加、参加希望率についても、54%から59%へと5%上昇、受入率も、44%から48%へと4%上昇している。この点に関連して、過去5年間における説明会への出席率および希望率を整理したグラフを次に示す。学部改組1年めにあたる平成20年度においては、出席率、希望率ともに減少していたが、2年めの平成21年度において、学部改組以前の数値に回復した形になる。

平成21年度より、バス（民間バス、公用バス）の利用を開始した。バス利用の必要性は、聖籠町、見附市、長岡市等の学校園に訪問するコースにおいて高い。

グラフ. 「入門教育実習」説明会の出席者、履修希望者が、  
教員養成課程の入学者総数に占める比率（％）の推移（過去5年間）



#### 4. おわりに

平成22年度においては、全ての附属学校園の校長の参加を得た形で、実施体制を組むことが予定されている。また、教育実践総合センターの廃止により、学部内に、新たに、教員養成フレンドシップ事業推進室が新設される予定である。今後においては、この体制のもと、指導体制の充実、カリキュラムの豊富化、多様化、適当な受入学生数の設定等に関する検討を続けていきたい



運動会での活動風景（新潟市立上所小学校）



「入門教育実習」報告会（教育学部）

なお、以上の詳細については次を参照（学部ホームページにも一部を掲載している）。新潟大学教育学部教育実習研究会編『教育実践場面への参加・観察による教師の仕事と子どもの発見』平成21年度新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」、1年次教育実習カリキュラム開発研究報告書、2010年3月。

## 2.4 研究教育実習－4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、教育実践総合センターに教育実習研究会（「研究教育実習」研究グループ）を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1) 多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2) 附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「体験的カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における教育実習カリキュラムの重要な構成要素として位置付けられている。

平成21年度においては、国語、社会、家庭科、数学、保健体育、美術、教育学の各研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

また、平成21年度においては、12月21日に、学習会『「研究教育実習」の現状と課題』（学部FD）が開催され、家庭科と数学科の実践事例が、それぞれ学部教員と附属学校教員から報告された。

なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開（VI）』（2010年3月）を参照。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、授業者等)
常木 正則 (言語文化コミュニケーション講座・国語科教育学)	「国語科教育実践分析演習Ⅰ・Ⅱ」 (前期・後期、各2単位、4年次4人、3年次3人)	履修生の各人が国語科の3領域1事項―「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」〔言語事項〕のいずれかについて、1単元の学習指導に関する仮説検証的研究を行った。	(1) 新潟市立青山小学校2年・5年・6年、11月下旬～12月上旬、4年次。 (2) 附属新潟中学校2年、3月中旬、3年次。 (3) 附属新潟小学校1年・2年、2月下旬～3月上旬、3年次。 時数は、すべて、5時間前後。
児玉 康弘 (人間社会ネットワーク講座・社会科教育学)	「社会認識形成史演習」 (3,4年次、後期、2単位、15人)	“総合”社会科を自覚させる論争問題学習の実験授業を行った。	(1) 附属新潟中学校3年1組、2組、3組、2月、各2時間。
高木 幸子 (生活環境学科目・家庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、3人)	卒業研究の内容の一部を実証的に検討することを目的に、小学校、中学校の家庭科授業で用いることのできる教材の検討を行った。	(1) 新潟市立根岸小学校、6年、11月～12月、8時間。 (2) 新潟市立内野中学校、1年、11月～12月、3時間。 (3) 附属長岡中学校、2年、12月、2時間。
山田 和美 (自然情報講座・数学科教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年6単位、1人) 「数学科教育法特論」 (院1年次、通年2単位、1人)	附属新潟小学校に通年で毎週1日通い、学習ボランティアとして実習を行った。毎回学習日誌をつけ、算数科の3人の教員に教材研究、児童指導等の指導を受けた。この体験を元に卒論の「算数的パターンの研究」の授業実践を行った。	(1) 附属新潟小学校、低学年三組、第5学年1組)、第6学年1組、4月～3月、毎週水曜日終日
垣水 修 (自然情報講座、幾何学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、5人)	卒業研究として、環境問題における数学の役割と、それを学校教育にどのように取り入れていけばよいか、について考察した。特に、「仮想水」の概念を題材とする教材を開発し、公立中学校において授業実践をおこない、それを基に授業分析と考察をおこなった。	(1) 東石山中学校、第1学年、12月、4年次学生

<p>和田 信哉 (自然情報講座・数学教育学)</p>	<p>「数学科教育法Ⅳ」 (3、4年次、後期、2単位、63人)</p>	<p>秋期実習の前に講義の中で指導案を検討し、それを実践したビデオを視聴・検討し、指導案を再検討して提案する活動を行った。</p>	<p>(1) 附属長岡中学校、第1、2学年(秋期教育実習)、11月、3年次。 (2) 附属新潟中学校、第1、2学年(秋期教育実習)、11月、3年次。</p>
<p>滝澤かほる (保健体育・スポーツ科学講座・保健体育科教育)</p>	<p>「体育方法学演習ⅠA」 (3、4年次、前期、2単位、10人)</p>	<p>トキめき新潟国体の開会式オープニングプログラム出場を目指し、一般市民200名、附属特別支援学校小学部3組児童保護者(交流学习)20名、五泉東小学校(出前指導)70名、教育学部保健体育専修および健康スポーツ科学課程の所属学生100名、計約410名を対象に「体操」の指導実践を行ない、最後に合同で国体開会式で演技をした。 希望者は、新潟県体操研究会主催第28回体操発表会に出場し成果を報告した。 更に附属特別支援学校児童には交流学习を継続し、卓球指導も行った。 指導、体操作品構成のみならず、企画、運営等のマネージメントも学んだ。</p>	<p>(1) 一般練習会(6回)、7月12日～9月20日 (2) 附特別支援学校小学部3組(交流学习)(11回)、5月13日～9月20日、2月17日、2月24日 (3) 五泉東小学校(2回)、8月31日～9月20日 (4) 新潟大学学生(31回)、5月12日～9月25日 (5) 会場練習・リハーサル・開会式(4回)、8月23日、9月12日、9月20日、9月26日 実施場所：新潟大学第1、第2体育館、五泉東小学校体育館、東北電力ビッグスワンスタジアム、スワンフィールド</p>
<p>柳沼 宏寿 (芸術環境講座、美術科教育)</p>	<p>「美術科教育課題研究Ⅰ・Ⅱ」 (3・4年次、通年、2単位、2人)</p>	<p>学習指導要領における「映像メディアで表現する」という内容について、主に映画制作を題材として推進し、学校や映画館で映像作品制作のワークショップを行った。</p>	<p>(1) 「出前ワークショップ」：新潟市立白新中学校、1～3学年希望者、11月。 (2) 「出前ワークショップ」：新潟・市民映画館シネ・ウインド、小学生、11月</p>
<p>岡野 勉 (教育科学講座、教育内容・方法)</p>	<p>「教育方法学演習C、D」 (3、4年次、前期、後期、各2単位、10人)</p>	<p>分数の定義の導入を目的とする一連の授業について、教育内容・教材構成および実践事例に関する基礎的な学習を行った後、群馬県・富岡市立丹生小学校4年生を対象として実施された一連の授業を対象として、記録の作成、分析、評価に取り組んだ。終了後、授業者、関係者の出席を得て、成果の報告会を開催した。 上記により、教育内容・教材構成を基軸とする授業研究の方法を習得することを目指した。</p>	<p>(1) 群馬県・富岡市立丹生小学校・4年、2009年1～2月、全10回、神戸康寿教諭</p>

## 2.5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業

### ——学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、半年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、障害児童・生徒の補助等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。教育学部においては学校ボランティア派遣事業委員会および教育実践総合センターが、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当した。

事業開始後7年にあたる平成21年度において、学校からの派遣要請総数は109校、259人であった。派遣されたのは、教育人間科学部（3、4年次生）の他、大学院教育学研究科、人文学部、大学院現代社会文化研究科に在籍する学生・大学院生、総計116人である。今年度から、幼稚園への派遣を開始した。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（38校、65人）、中学校（23校、48人）、幼稚園（3校、3人）、総計64校である。学校数、派遣人数については、平成20年度（64校、118人）とほぼ同数となり、例年の相場50校、100人を今年度も維持した。なお、平成18年度から、新潟青陵大学が、この事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する強い要望が寄せられている。

大学内においては、9月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生、大学教員、新潟市教育委員会担当者、総計35人）。12月には、「平成21年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生、現職教員等、総計約120人）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成21年度においては、15人の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第7年次）』を作成した。関連事業として、新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校9校に対して、43人の学生（他学部生16人を含む）を派遣した。また、見附市教育委員会、三条市教育委員会と連携し、見附市には11校（小学校7校、中学校4校）に69人、三条市には4校（小学校3校、中学校1校）に5人の学生をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景



公開シンポジウム 実施風景

## 2.6 教育実習

### (1) 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次入門教育実習、2年次観察・参加実習、3年次教育実習、4年次副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるので、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

### (2) 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

#### ① 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・図工・音楽・道徳の6教科9コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施した。

#### ② 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っている。

附属学校園において1週間実施した。

#### ③ 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における機会を提供している。

#### ④ 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一同に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。



## 2.7 介護体験

### (1) 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(平成9年法律第90号)が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程(平成19年度までは学校教育課程)所属の学生のうち特別支援教育専修(平成19年度までは障害児教育専修)を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校免許状の習得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。

実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

### (2) ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

#### ○ 事前指導

日 時 平成21年4月9日(木)

対 象 平成21年度に介護等体験を希望する者(主として2年生)

#### (1) 開会

#### (2) 介護等体験の実施にあたって

介護等体験実施委員会委員長

#### (3) 介護等体験受け入れ側による事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉社会会長 宮崎 則男 氏

「附属特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 藤村 修 氏

#### (4) 介護体験の諸連絡等

人文社会・教育科学系学務課職員

#### ○ ガイダンス

日 時 平成21年12月4日(金)

対 象 平成22年度に介護等体験を希望する者(主として1年生)

#### (1) 介護等体験実施の概要について

全学教職支援センター教職課程支援部門 宮菌 衛 部門長

#### (2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

および人文社会・教育科学系学務課職員

### (3) 実習状況

平成21年度は、学校教育課程225名、その他の課程69名、大学院2名の計296名が次の表のとおり実習を行った。

### (4) 効果と今後の課題

施設や学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、一部の学生の自覚・準備不足及び進路変更等により9名の実習取消があり、更なる事前指導の取り組みが求められる。

平成21年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	48	185	
長岡市	14	17	
三条市	4	7	
新発田市	9	13	
加茂市	1	2	
小千谷市	3	3	
十日町市	2	2	
村上市	3	3	
見附市	3	3	
燕市	3	5	
糸魚川市	2	4	
妙高市	3	5	
五泉市	3	5	
上越市	12	18	
阿賀野市	4	5	
佐渡市	5	6	
魚沼市	3	3	
南魚沼市	3	5	
田上町	1	2	
関川村	1	1	
弥彦村	1	2	
<b>合 計</b>	<b>128</b>	<b>296</b>	

平成21年度附属特別支援学校実習一覧

回 数	実 施 期 間	人 数
1	H21. 5.13 ~ H21. 5.14	29
2	H21. 5.20 ~ H21. 5.21	31
3	H21. 5.28 ~ H21. 5.29	29
4	H21. 7. 8 ~ H21. 7. 9	29
5	H21.11.10 ~ H21.11.11	29
6	H21.11.19 ~ H21.11.20	31
7	H21.11.25 ~ H21.11.26	29
8	H22. 1.13 ~ H22. 1.14	25
9	H22. 1.20 ~ H22. 1.21	30
10	H22. 1.27 ~ H22. 1.28	32
<b>合 計</b>	<b>10回</b>	<b>294</b>

※ 2名昨年度特別支援学校における介護等体験実施済

## 2.8 「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」の開講

平成17年度より、教育人間科学部学生を主たる対象とした全学科目「キャリア・デザインⅠ」、「キャリア・デザインⅡ」を開講してきており、今年度は5年目である（担当教員：松井、高橋）。

この講義は自己理解を深めて己を知り、見知らぬ他人とのコミュニケーションを図ることを積極的に行うとともに、十分に時間をかけて将来のキャリアを考えようというものである。

カリキュラムの全体構想として、2年2期に「キャリア・デザインⅠ」を履修、3年1期に「キャリア・デザインⅡ」、そして3年夏期休業中にインターンシップを実際に体験し、3年2期からの就職活動に備える、ということ想定している。

本年度も『キャリア・デザイン』（仙崎武監修、文化書房博文社）をテキストとして利用し、集中講義で開講した。具体的な内容は以下の通りである。

\* 「キャリア・デザインⅠ」（2年生以上対象、8コマ、2010/2/9～10開講）

担当教員 (コマ数)	内 容
松井賢二 (6)	まず若者たちの「働く現場」に関連したビデオを視聴した後、それに関する意見や感想をグループでディスカッションしたり、全体で話し合ったりしながら、自分にとって働くことの意味は何か、そして職業生活が自分のライフスタイルとどのように関係するのか、などを各々が熟考した。
高橋桂子 (2)	大学は、小・中・高からの「教育」の最終段階であると同時に、これから40年以上にわたる社会人生活の「助走期間」でもある、と動機付けした上で下記のことを行った。 【1時限 仕事を見つける】仕事適性を測るヒト・モノ・データ指標に対する自己評価を通して、己を知る（テキスト5章、6章）。 【2時限 面接試験】面接の模擬を本講義で初めて出会った友達2人以上で行い、相互に改善点を指摘する（テキスト7章）。

\* 「キャリア・デザインⅡ」（3年生以上対象、15コマ、2009/7/4、8/7、9/7 開講）

担当教員 (コマ数)	内 容
松井賢二 (15)	「自己分析」をテーマとして、まず職業選択における自己分析の重要性を講義する中で、その必要性を認識させた。そして、2種類の検査（VPI、CA-PA）を実施しその結果を検討することによって、自己分析を行った。これらの分析結果を参考にして、自分に適した職業について再考し、その理由を明確化した。さらには、自己分析の結果を参考にしながら、ロールプレイングで模擬面接を行うことを通して、再度自己を見つめると同時に、自己PRの仕方などについても実践的に学習した。

## 2.9 インターンシップ

### ○「学校インターンシップ」－大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成17年度より「学校インターンシップ」を実施している。「学校インターンシップ」とは、(1)実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に、(2)教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して、(3)専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成19年度までは「教育実践総合研究」(2単位)の一環として位置づけられていたが、平成20年度からは「学校インターンシップ」(2単位)として独立し、平成21年度は12名の大学院生が9校において活動を実施した。その概要を次に示す。

平成21年度 大学院「学校インターンシップ」実施概要

No.	氏名	分野・専修	配属学校	活動に関する内容		
				教科等	課題、目的等	期間
1	横堀 壮 昭	特別支援教育	附属特別支援学校	特別支援教室	通級指導教室における指導と独り言軽減に向けた取組	H21.5 ~ H22.2
2	伊藤 真 理	特別支援教育	附属特別支援学校	特別支援教室	発達障害通級指導教室での実習を通して	H21.6 ~ H22.3
3	中沢 公 美	学校教育学	附属新潟小学校	家庭科	小学校家庭科における授業観察と授業実践研究	H21.5 ~ H22.3
4	白木 妙 子	国語教育	附属新潟中学校	国語	「学校インターンシップ」における授業分析と実践から学んだこと	H21.6 ~ H22.3
5	塚尾 誠 貴	社会教育	附属長岡中学校	社会	学校現場の実態把握と研究教育実習との連携	H21.6 ~ H22.3
6	関塚 友 希	社会教育	笠木小学校	学級指導	小学校複式学級における支援と課題	H21.5 ~ H22.3
7	山倉 裕 子	英語教育	白新中学校	英語	中学英語教育における学習支援からの学び	H21.6 ~ H22.3
8	高山 喜 子	音楽教育	白新中学校	特別支援教室	生徒が音楽表現を深めるための指導の在り方	H21.6 ~ H22.2
9	笠井 悠	学校教育	附属新潟小学校	学級指導	学級力の育成に関するインタビュー	H21.6 ~ H22.2
10	佐藤 正 実	数学教育	小針中学校	数学	中学校における個別学習支援を経験して	H21.7 ~ H22.2
11	細川 伸 子	数学教育	二葉中学校	数学	数学授業のチームティーチングを通して	H21.6 ~ H21.12
12	高桑 美 奈	理科教育	和納小学校	理科	継続的な学習支援を通して得た児童と教師の関わり方	H21.5 ~ H22.3

なお、平成20年度における活動の内容と成果について、次の報告書を発行した。新潟大学教育学研究科学校インターンシップ事業委員会編「平成20年度『学校インターンシップ』実践報告書」『大学院教育における実践的カリキュラムの開発(第4年次)』、2009年

また、2009年12月10日に受講生が集まり、最終活動報告会が開催された。今年度の報告会は、大学院生により組織された実行委員会が報告会の計画から運営に至るまで大学院生が主体的に取り仕切り開催に至った。報告会では、代表者3名の活動報告や討論会の場が設けられ、参加者の間で活発な議論・意見交換が行われた。

## ○ 企業インターンシップ

### (1) 学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

#### ① 平成21年度インターンシップの概要

##### ・実施時期及び期間

平成21年8月～9月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）および通年（5月～1月）で10日間。

##### ・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

##### ・教育課程上の位置づけ

「生涯教育行政論演習」（選択科目・2単位。担当教員：雲尾）での単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

##### ・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数。1名のところは略）

新潟市公民館：中央【2】、中、石山【2】、亀田、白根、坂井輪【5】、西【2】、小針青山【3】

新潟市図書館：中央【2】、豊栄、石山、鳥屋野、生涯学習センター、新津

新潟県立生涯学習推進センター【2】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【2】

#### ② 報告書

『平成21年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成22年3月17日）140部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、平成22年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布し、感想用紙（および参加希望者は参加申請用紙）を提出するようにさせています。

## (2) 健康スポーツ科学課程

### 平成21年度 ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

新潟大学健康スポーツ科学課程インターンシップは、3年次の必修科目「ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習」として行われている。今年度は、平成21年8月から10月までの期間に約2週間の日程で実施した。

健康スポーツ科学課程では課程発足以来、この実習を必修の教育課程として実施し、今回は11回目である。本実習は、正式な就業以前に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等に就業体験を行うことで、実際の職場での業務内容の知見や実務的な体験を通じてさまざまな発見や技能を身につけることを目的としている。

4月から事前指導を開始、7月には新発田市の健康運動指導士見田賢一氏を講師に招き、「健康運動指導士の活躍現場と社会的ニーズ」という演題で事前特別講義を行い、有資格者がどのような実践を行い、成果を上げているか、現状の問題点などについて学習を深めた。

一部施設では8月から実習を開始、今年度は計13箇所の施設で実習を行った。

実習後、10月に学生による実習報告会を実施した。さらに、実習全体をまとめた「平成21年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習報告書」を作成した。

---

### 平成21年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習 実施経過

平成21年4月7日 3年生全体ガイダンス

平成21年4月16日 第1回目事前指導（篠田、山崎）：第1回目希望調査実施

平成21年4月23日 新潟市スポーツ振興課、新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター、新潟県体育協会訪問（篠田、五十嵐）21年度実習依頼。

平成21年4月23日～5月14日 第2回～第5回 事前指導（篠田）

平成21年4月30日 第3回目事前指導（篠田）：受入施設と人数の資料配布

平成21年7月16日 特別講義 見田賢一「健康運動指導士の活躍現場と社会的ニーズ」

平成21年8月～10月 実習

平成21年10月22日 実習報告会（教育学部大講義室）（当初10/15を変更）

平成21年10月29日 実習報告書の原稿締め切り

平成21年12月 課程実習委員会開催



特別講義 見田賢一「健康運動指導士の活躍現場と社会的ニーズ」の様子

平成21年度 HP・社会スポーツ指導実習 実習先・実習学生数 (計31名)

	実習施設	人数	実習期日
1	新潟市保健所	4	8/31(月)～9/11(金)
2	新潟県体育協会(1)	2	8/24(月)～9/6(日)
	新潟県体育協会(2)	3	9/24(木)～10/7(水)
3	新潟県健康づくり ・スポーツ医科学センター	5	9/2(水)～9/15日(火)
4	新潟県障害者交流センター	1	9/1(火)～9/16(水)
5	新潟市スポーツ振興課 (1週目のみ,2週目は鳥屋野総合体育館へ)	2	8/31(月)～9/4(金) 9/7(月)～9/11(金)
6	鳥屋野総合体育館	2	8/31(月)～9/11(金)
7	東総合スポーツセンター	2	9/1(月)～9/12(金)?
8	西総合スポーツセンター	2	8/17(月)～8/28(金)
9	亀田総合体育館	2	9/2(火)～9/14(日)?
10	ビジョンよしだ	1	9/7(月)～9/19(土)
11	スポーツバイキング分水	2	9/7(月)～9/20日(日)
12	スポーツランド燕	1	?
12	サンビレッジしばた	2	9/7(月)～18(金)

### (3) 音楽表現コース

音楽表現コースでは2001年度からインターンシップを実施しており、現在、7つの企業や団体が学生を受け入れている。それらは、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall, Sony Music Foundation, 鼓童、新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」、新潟県文化振興財団、ヤマハミュージック関東・新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、世界規模の音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。2009年度のインターンシップには8名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は、『平成21年度新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第9号を参照

・ Hakuju Hall：6・8月（1名）

第59回リクライニングコンサート「ピアノの日」、並びに第4回 Hakuju ギターフェスタ2009

「イタリア～Sonare! Cantare!! Amore!!!」でのケータリング業務・受付業務・タイムキーパーなどの運営業務。

・ 財団法人 鼓童文化財団：8月（1名）

国際的な音楽祭「Earth Celebration 地球の祝祭」（佐渡市小木町鼓童村）の運営業務。

・ Sony Music Foundation：5月、8月（2名）

「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャパン 熱狂の日」音楽祭2008（東京国際フォーラム）並びに第9回「国際オーボエコンクール・軽井沢2009」（軽井沢大賀ホール）の運営業務。

・ ヤマハミュージック関東 新潟店：9月（4名）

机上研修、JOCフロアコンサート・レッスン見学、JOC&なかよしソング・コンサート見学、店舗業務。



## 2. 10 各課程の特色ある教育活動

### ○ 言語文化コミュニケーション講座・国語教育専修の活動

新潟大学教育学部国語国文学会は、本専修を母体とする学会である。平成21年度より会則を変更し、学生の活動を本会の活動として位置付け、以下の2つの研究会を行った。この研究会には、学外の一般の教員も参加することができ、大変好評であった。

#### (1) 新潟大学教育学部国語国文学会夏期研究会

日 時：平成21年7月25日（土）13：30～17：00

場 所：新潟大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）大会議室

参加者：国語教育専修教員・院生・学生・卒業生・修了生 計90名

内 容：

##### ①講演 「森鷗外の『曾我兄弟』とその周辺」

新潟大学名誉教授 清田 文武

##### ②シンポジウム 「読むことの研究と教育をつなぐ」

コーディネーター 新潟市教育相談センター 渡部孝三郎

シンポジスト 見附市立見附小学校 山崎 勝之

新潟市立鳥屋野中学校 三林 伸広

新潟市立内野中学校 石黒 麗子

新潟大学教育学部 堀 竜一

##### ③臨時総会 会長選出、会則変更（会員、会費）など

#### (2) 新潟大学教育学部国語国文学会研究大会

日 時：平成22年2月20日（土）13：30～17：20

場 所：新潟大学教育学部B棟105講義室

参加者：国語教育専修教員・院生・学生・卒業生・修了生・一般教員など

計117名

内 容：

##### ①研究発表

読書活動の充実を目指した実践

新潟市立鑑郷小学校 菅谷内 敦

高等教育における「言論の場」教育について

福山大学人間文化学部 磯貝 淳一

読みのレベルを診断するベンチマーク・アセスメント・システム

新潟大学教育学部 足立 幸子

なぜ誤読は起こるのか—解釈における誤読という現象に関する一考察—

上越教育大学学校教育実践研究センター 佐藤 佐敏

魯迅「故郷」における「希望」をめぐって

佐渡市立内海府中学校 三村 孝志

##### ②講演

国語科授業の運用力について

長岡市教育センター指導主事 教員サポート錬成塾 山田 裕信

##### ③総会

○ 生活科学課程・学校教育課程家庭科専修

(株) サークルKサンクス・水と土の芸術祭との共同企画 “にいがたの水と土から、恵みご飯”

新潟市で開催された「水と土の芸術祭」(期間2009年7月18日～12月27日)に合わせて、(株) サークルKサンクスおよび水と土の芸術祭実行委員会との共同企画により、おにぎり・お弁当の開発を行った。これは、“にいがたの水と土から、恵みご飯”をテーマに、「新潟の水と土で育った食材」にこだわり、食を通して「地域の魅力発信」、「地元食材の消費アップ」、「地域の活性化」を推進しようとする取組であった。2009年4月中旬から生活科学課程・学校教育課程家庭科専修の食物学研究室に所属する3、4年生11名がメニューのアイデアを出し合い、(株) サークルKサンクスおよび製造を担当するカネ美食品(株)と数ヶ月にわたる試食・打ち合わせを重ねた結果、完成した商品は新潟県内のサークルK 92店で販売され、好評を得た。

開発した商品は、次の通りである。

<第1弾>

販売期間：2009年7月16日～8月5日

商 品：おにぎり2品、弁当2品(写真1～4)

使用食材：新潟市産コシヒカリ・なす・たまねぎ・にんじん、新潟県産エリンギ・しめじ・舞茸・アスパラガス・鶏肉・豚肉・越後味噌・笹川流れの塩など



←写真1  
新潟むすび(新潟県産  
きのこと鶏そぼろご飯)



←写真3  
まるごと新潟天井



←写真2  
新潟むすび(新潟県産  
豚そぼろと越後辛味噌)



←写真4  
新潟産三麻婆丼

<第2弾>

販売期間：2009年10月15日～11月4日

商 品：おにぎり2品、弁当2品、パスタ1品(写真5～9)

使用食材：新潟市産コシヒカリ(新米)、新潟県産米粉・豚肉・鶏肉・やわ肌ねぎ・かぐら南蛮・エリンギ・なめこ・舞茸・ぶなしめじ・越後味噌など



←写真5  
新潟むすび  
(鮭の越後味噌漬)



←写真7  
新潟県産豚肉と鶏肉の  
たれかつ丼



←写真6  
新潟むすび(かぐら南蛮  
味噌と鶏そぼろ)



←写真8  
秋のにいがた幕の内



←写真9

新潟県産コシヒカリの米粉入りパスタ  
新潟県産きのこのクリームソース

第1弾企画の販売開始に先立ち、2009年7月10日、新潟大学本部会議室において篠田市長をはじめ、下條学長、森田学部長、理事の先生方をお招きしての企画発表・試食会を実施した。学生達が企画・商品の紹介や素材・味のこだわり、ネーミングについてプレゼンテーションを行い、その様子はテレビ・新聞等、報道各社の取材を受けることになった。この各メディアでの広報も手伝い、新潟大学学生が作ったお弁当として一般消費者の購買意欲を刺激したことにより、第1弾は16707食、続く第2段は第1弾を上回る18078食を販売することができた。

今回、学生は実際の商品開発に関わったことにより、自分が考案した商品が店頭に並び多数の消費者の方々に食べていただけた喜びや達成感を感じるとともに、ひとりの生活者（消費者）の視点のみならず、万人受けする味を開発するため、年齢や性別など様々な購買ターゲットを意識することの大切さ、限られたコストでの工夫、大量生産に適した食材の利用法やその調理法を工夫することの難しさを学んだ。さらに、新潟の豊富な食材を再認識することとなり、地産地消の在り方を考える機会にもなった。今後、フードスペシャリストとして活躍する学生にとっては、大変貴重な経験であった。さらに本企画では、商品パッケージや店頭販促物を芸術環境創造課程に所属する学生と連携が図れた点においても大変意義のある企画であったと評された。



写真10 打ち合わせの様子



写真11 開発に関わったメンバー



写真12 試食会でのプレゼンの様子



写真13 試食会の様子

## ○ 自然情報講座の活動

### 1. 特色ある教員養成

#### 理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー；CST）養成拠点構築事業への採択

新潟大学では、今年度より始まった理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー；CST）養成拠点構築事業（試行的取組）に採択された。CST事業とは、小・中学校教員の理数教育における指導力向上を図ることを目的として、大学と教育委員会が連携し、養成プログラムの開発・実施や地域の理数教育における拠点の構築・活用などを通じて、地域の理数教育において中核的な役割を担う教員を養成するものである。

教育学部自然情報講座を中心に、特色あるCST養成および養成拠点構築事業1年目を実施した。

### 2. 中・高校教員のための研修会（希望型）

新潟県立教育センターと連携し、県内の中学校・高校教員を対象に理科（主として物理分野）の研修会を行った。力や運動、エネルギーなどの物理概念を確実に生徒に理解、定着させるためには、体験を重視した物理の指導方法の改善と共に、教材の活用方法や新たな教材の開発が必要である。

中学校、高等学校の6年間を通じて関連する指導内容と指導方法を理解することで、互いの視野を広げ、それぞれの授業指導の向上につながると期待し下記の研修会を行った。

- 7月25日（土） 圧力実験
- 9月12日（土） 簡易分光器作成とスペクトル観察  
ピンポンキャノンの作成と真空実験
- 10月31日（土） 霧箱実験と放射線の観察  
ベースピによる運動分析
- 11月28日（土） エレキギターとフランクリンモーター  
ITセンサーによる運動分析
- 12月13日（日） ITセンサーによる運動分析

### 3. シンポジウムなど

#### (1) シンポジウム・ワークショップ

「第2回 理科好きの子どもを育てる、伸ばすには～家庭・地域・学校間の連携を目指して～」

期 日：平成21年2月20日（土）13：00～18：00

2月21日（日）9：00～13：00

参加人数：のべ約120名

趣 旨：1年間のCST候補生の活動報告および日本各地での理科教育にかかわる活動・研究・実践例などの情報交換の場として、シンポジウムを開催した。

（主催）新潟大学教育学部（共催）新潟市教育委員会、新潟大学地球環境・地球物質研究センター

（後援）日本物理学会新潟支部、日本物理教育学会新潟支部、新潟地学教育・普及連絡協議会



## (2) ミニシンポジウム「新潟の自然と科学教育の素材（第3回）」

日 時：12月 26日 13：00～17：00

会 場：新潟大学教育学部 204講義室（五十嵐キャンパス）

新潟大学教育プロジェクトとして、新潟大学教育学部主催のミニシンポジウム（標記）を12月26日に開催した。前半は古環境にまつわる2つの研究紹介を、後半は地学教育について他県と交流し、新学習指導要領のもとでの理科（地学）教育について討論した。県下の高校教員も参加して、自然科学教育について熱い討論が繰り広げられた。プログラムは下記の通り（自然情報講座 藤林紀枝，高清水康博）。

### 第Ⅰ部 研究紹介

1. 高橋正道（理学部自然環境科学科）「白亜紀に咲いた花」
2. 田沢純一（理学部地質科学科）「古生代ペルム紀の海洋と生物，そして日本」



### 第Ⅱ部 地学教育

3. 斎藤敦史（新潟県立新発田南高校）「新潟県の地学教育」
4. 中井均（都留文化大）・中井睦美（大東文化大）「関東圏の理科教員養成と採用の状況」
5. 宮嶋敏（埼玉県立深谷第一高校）「関東の高校地学教育ー埼玉県を中心にー」
6. 芝川明義（大阪府立花園高校）「大阪府の地学教育と新学習指導要領下のカリキュラム編成について」
7. 藤林紀枝（教育学部自然情報講座）「火山の学習に減圧と発泡現象の内容を」
8. 畠山正恒（聖光学院中学高等学校）「地球惑星科学連合のめざす地球科学教育」



## 3. 新潟市立総合教育センターにおける「天文教室」実施補助

新潟市立総合教育センターでは、小学校教員を講師に招き、一般市民向けに天文教室（年間4回程度）を行っている。

今年度より、教員志望の理科の学生を天文教室運営補助として派遣した。新潟市立教育相談センターの屋上には、大きな天体望遠鏡があり、学生は、天体の指導方法、望遠鏡の操作技能を習得することができるなど、実地で学ぶことは多かったようである。



#### 4. 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

日吉小学校では、外部講師がボランティアでクラブ活動（月1回、90分）を行うという独自の活動を行っている。理科教育研究室の4年生を中心として以下の科学クラブを行った。

対 象：小学4年生～6年生 約20名

平成20年9月30日（水） 「透かし絵の不思議ほか①」

平成20年10月21日（水） 「透かし絵の不思議ほか②」

平成20年11月25日（水） 「ペットボトルロケット①」

平成20年12月9日（水） 「ペットボトルロケット②」

平成21年1月27日（水） 「スライムづくり①」

平成21年3月3日（水） 「スライムづくり②」

#### 5. 夢化学-21・化学への招待「高校生のための化学実験公開講座」

期 日：平成21年8月20日（木）8：30～17：30

会 場：新潟大学五十嵐キャンパス各学部

参加人数：高校1～3年生約100名（全実験講座数22）

教育学部での実施講座：「発泡性入浴剤（バブ）を作ってみよう」（担当：化学教室 鎌田正喜）

参加人数：高校1～3年生 6名

実施概要：新潟大学の化学関係教員は、日本化学会関東支部、新潟県化学教育協議会の主催で1990年から「高校生のための化学実験公開講座」を継続的に開催し、化学の啓蒙活動を実施している。

本学部の化学教員もこの企画に賛同し、1990年の公開講座開始当初から幹事として参加するとともに独自の実験講座を出店し、本学部化学教室の4年次学生とともに公開講座の実施・運営に尽力している。今年度は教員志望の化学教室4年次学生6名が実施・運営に協力した。

（主催）日本化学会関東支部、新潟県化学教育協議会

（共催）高分子学会北陸支部、環境材料ナノ化学教育センター、

（後援）新潟県教育委員会

#### 6. 「青少年のための科学の祭典（燕大会）」実施補助

期 日：平成21年9月12日（土）～13日（日）の2日間、燕市吉田産業会館

実施概要：今年度より教員志望の本学部化学教室の4年次学生6名をボランティア派遣し、小中学生向けに開設された以下の実験ブースの運営および実施に協力した。

- ・「スライム作り」
- ・「ベンハムのこま作り」
- ・「びっくりたまご」
- ・「あぶりだし」など

## ○ 学校教育課程保健体育専修

### 1. トキめき新潟国体開会式オープニングプログラム「リズム体操」出場コース

#### (1) 概要

第64回国民体育大会の新潟県開催年にあたり、県民に国体開会式参加の機会を提供し、発表練習を通して国体の理念である「スポーツへの関心を高め、スポーツを通じた相互理解・交流と健康増進」につなげる企画を実施した。本講座主催の「新大なんでもスポーツ・プロジェクト」の中に「トキめき新潟国体開会式県民パフォーマンス出場教室ーリズム体操ー」を開設し、一般公募により出場希望者を募り、学生と教員が一体となり、演技構成、参加者募集、指導を行い、出場に導いた。

トキめき新潟国体開会式は9/26(土) 東北電力ビッグスワン・スタジアムにて実施された。与えられた7分間の中で、2作品を発表した。最初は学生のみで「I Believe」(構成：3年生)を、次に全員で「TOKI体操」(構成：新潟県体操研究会)を発表した。出場者410名は、全員が一体となって気持ちよく、のびのびと、よい発表ができた。観客から盛大な拍手を送られた。



#### (2) 練習実施時期・回数・場所・人数

一般参加者練習会：7/12～9/20・6回・新潟大学第1、第2体育館・200名

附特別支援学校小学部3組児童ほか交流学习：5/13～9/20、11回・新潟大学第2体育館・20名

五泉東小学校出前授業：8/31・1回・五泉東小学校体育館・70名

新潟大学学生練習会：5/12～9/25・31回・新潟大学第1、第2体育館・100名

会場練習・リハーサル・開会式：8/23、9/12、20、26・4回・ビッグスワンスタジアム、スワンフィールド



## 2. 学生企画による第28回体操発表会での作品発表

保健体育・スポーツ科学講座所属学生企画により、各種グループを支援し12月5日（土）新潟市鳥屋野総合体育館において開催された第28回体操発表会（主催：新潟県体操研究会 協力：新潟大学教育学部保健体育科出場者）の出場に導いた。

これらは、（1）学部学生・院生グループ、（2）附属長岡小学校、附属特別支援学校児童の発表グループ、および（3）新潟大学公開講座・新大なんでもスポーツ・プロジェクトの学外の一般市民参加者による発表グループである。下表の通り出場者は300名、発表作品数は18作品である。この企画は、毎年続けられており、今回も、発表会運営に加わるとともに、「自分たちが授業で作った作品」「授業で習った作品」および「先輩達から引き継いだ作品」を1500人の観客の前で発表し、大喝采を受けた。

第28回体操発表会発表作品・人数（学生企画・指導・支援）

作品名	団体名	人数（学生 院生数）
手具なしの体操（スペースランデブー）	保健体育科	
手具なしの体操（ブギーワンダーランド）	保健体育科	
棍棒（アルプスの風）	保健体育科	
メディシンボールを使った体操（ウルトラソウル）	保健体育科	62（62）
アイゼンリンク（コズミックハイウェイ）	保健体育科	
ラート運動（テキーラ、エンターティナー他）	保健体育科	
手具なしの体操（女子12楽坊）	保健体育科4年生	
手具なしの体操（IBelieve）	保健体育・スポーツ科学講座第1教室	
輪を使った体操（ボンキッキ体操）	小学校体育受講生	57（57）
手具なしの体操（バットマン）	小学校体育受講生	
手具なしの体操（崖の上のポニョ）	附属特別支援学校小学部3組	31（20）
手具なしの体操（なかよし体操）		
ボールを使った体操（ハイホー）	附属長岡小学校リズム体操クラブ	13（2）
手具なしの体操（ルージュの伝言）	新潟大学公開講座受講生	38（11）
ボールを使った体操（エビカニクス）		
手具なしの体操（ハッピーソング）	新大なんでもスポーツ・プロジェクト リズム体操コース	12（2）
手具なしの体操（アウトィアリコスキ）		
手具なしの体操（TOKI体操）	新大なんでもスポーツ・プロジェクト トキめき 新潟国体開会式（リズム体操）出場グループ	86（40）
合計	299（194）	





○ 保健体育・スポーツ科学講座

1. 地域の健康づくり

(1) 平成17年から新潟市健康づくり推進委員会委員として、新潟市民の健康づくり推進のための事業計画づくりに参加し、全体計画の策定を行ってきた。平成17年度は「にいがた市民健康づくりアクションプラン」を策定、平成18年度は「スマイル新潟ヘルスプランー新潟市健康づくり推進基本計画ー」、平成19年度には「スマイル新潟ヘルスプランー健康づくり推進実施計画ー」を策定した。平成19年度からは身体活動・運動部会長として策定に当たった。平成20年度には身体活動・運動部会が「にいがた市民健康づくりアクションプランー運動編ー指導者用」を策定、このテキストのイラストは芸術環境講座丹治嘉彦准教授に監修、芸術環境創造過程造形表現コース4年（当時）山崎沙織氏に作成していただいた。

平成21年度はこのテキストを用いて指導者講習会（健康づくり関係職員、運動普及推進委員、体育指導員対象）、一般市民対象の健康づくり事業を展開した。

その一方で、平成21年度の身体活動・運動部会委員とともに「にいがた市民健康づくりアクションプランー運動編ー」（市民向け・年代別）を策定した。



平成17年度



平成18年度



平成19年度



平成20年度



平成21年度策定 年代別 にいがた市民健康づくりアクションプランー運動編ー

(2) 西区健康福祉課健康増進係が企画した「西区健康づくりウォーキングロードマップ作成実行委員会」の委員長となり、「西区てくてくウォーキングMAP」を作成した（西区全戸配布）。

ウォーキングは市民の実施する運動種目のトップであり、これからやってみよう種目では常に上位1～2位となっている。西区各地区の自治会からはモデルコースを掲載したウォーキングマップを作してほしいという要望が多数寄せられていた。上述のにいがた市民健康づくりアクションプランー運動編ーでは、手軽な身体活動・運動の一例としてウォーキングを取り上げていることもあり、区民の健康づくりの一助になれば、と1年がかりでコースの選定、現地視察を繰り返し、委員だけでなく区の職員や一般市民の協力も得て平成22年3月に完成。この委員会には健康スポーツ科学課程2年生（社会人入学）も参加し、精力的にマップ作成に力を注いだ。

平成22年度はウォーキングの理論と実技講習会、コースを歩いてみるイベントが企画されている。これらの事業は、平成22年度新潟市特色ある区づくり事業に組み込まれている。



西区てくてくウォーキングMAP

## 2. 新潟県の子どもの体力づくり

新潟県教育庁の行った平成21年度文部科学省委託事業「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に基づく子どもの体力向上支援事業の委託を受けて次の事業を行った。

- (1) 子どもの体力向上支援委員会（委員長）
- (2) 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果等の分析と「新潟県体力・生活実態調査」との比較分析
 

これらの結果の集計を行う際、学部学生、大学院生（現代社会文化研究科修士）の協力を得るとともに、結果について専門科目スポーツ科学研究演習Ⅰ、Ⅱ、大学院の授業・演習のなかで検討を行い、報告書にまとめて県に提出した。また、新潟県教育庁の許可を得て、これらのデータの一部を卒業論文作成に利用した。これらの成果の一部は「新潟県の学校体育」「体力づくりガイドライン」ならびに「指導者のための体力向上テキストブック」に引用されている。
- (3) 体力作りガイドラインの作成、「指導者のための体力向上テキストブック」作成
 

県内小・中学校に配布。初任者研修などで活用される予定。
- (4) 子どもの体力向上支援プログラムの作成
 

本プログラムに基づいて、下記の講習会を行った。
- (5) 子どもの体力向上指導者養成講習会実技講習の実施（主任講師：上越市、長岡市、新潟市、佐渡市で実施）

開催期日	開催地区	会場	参加人数
7月30日（木）	佐渡地区	県立佐渡中等教育学校	35名
7月31日（金）	中越地区	長岡市立旭岡中学校	124名
8月10日（月）	上越地区	上越市立春日中学校	60名
8月11日（火）	下越地区	県立豊栄高等学校	50名

4回の指導者養成講習会には健康スポーツ科学課程を経て現代社会文化研究科修士に在籍の大学院生2名が補助員として参加し、資料作り、実技補助等で帯同した。



体力づくりガイドライン



指導者のための体力向上テキストブック

本事業は平成22年度も継続して行う予定である。

(6) 新潟県 県民スポーツ課生涯スポーツ推進係、NPO法人希楽々 平成21年度生涯スポーツ指導者講習会

新潟県が主催し、毎年県内各地区で実施している生涯スポーツ指導者講習会のうち、地域の子どもの健全な発育・成長と正しい生活習慣確立のため、こどもをスポーツ好きにする指導者の養成を行った。対象は市町村生涯スポーツおよび健康・体力づくり行政担当者、体育指導委員、生涯スポーツ関係団体指導者等50名。

実施期日：平成21年7月25日（土）9：30～15：00 実施会場：かみはやし総合体育館

○ 芸術環境創造課程音楽表現コース

<2009年度 音楽科特色ある教育活動>

- 1 「いじめ根絶県民の集い」で新潟大学教育学部音楽科の学生が、新潟市立内野小学校の6年生と音楽劇「笛吹きオオカミ」で共演し、最後に「窓の外には」を全員で合唱した。

日時：平成21年8月9日（日） 午後1時～4時

会場：新潟テルサ

演目：音楽劇「笛吹きオオカミ」原作：イソップ 脚本：桂木 農

混声合唱曲「窓の外には」 作詞：小森香澄 作曲：T. Hirashima



- 2 教育学部合唱ホールにて音楽科授業「舞台芸術」の授業成果発表会を開催した。

日時：平成21年11月14日（土） 午後2時30分開演

会場：教育学部音楽棟合唱ホール

演目：勇敢な少年たちのための音楽劇「ぞっとする物語」

作詞：池澤夏樹 作曲：池辺晋一郎

制作：音楽科及び美術科学生30名

(写真は舞台美術として製作したイタリアの町並み)



3 附属病院で音楽科授業「合唱」の授業成果発表会を開催した。

日時：平成21年11月28日（土） 午後3時開演

会場：新潟大学医歯学総合病院大会議室

演目：混声合唱曲 「鉄腕アトム」作曲：高井達夫 作詞：谷川俊太郎

宮崎 駿 アニメ映画音楽集より「もののけ姫」「君をのせて」

「となりのトトロ」 編曲：信長貴富

文部省唱歌：「もみじ」「ふるさと」

この企画は4年前から病院側との提携で始められたもので「舞台芸術」と「合唱」の授業成果発表会を病院で行い、入院患者さんに学生の生演奏を披露できる貴重な機会をいただいているものである。

今年度は都合により「合唱」のみの公演となったが、会場には100名ほどの患者さんや家族が集まり、知っている曲には一緒に口ずさんで歌われた方がおられるなど、和やかな雰囲気に包まれ「ハーモニーの美しさ」を楽しんでいただいた。

公演終了後には来場者から喜びの言葉、感謝の言葉をいただき、学生達にとっても今後の大きな励みとなり、来年度も継続的に開催する運びとなった。



## 特色ある教育活動（音楽表現コース）

新潟市西区役所との連携により、「西区でアート：みゅーじっくろさき2009」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1、2」並びに「課題研究」）の中で、マネジメントの実習も兼ねて行った。3年計画で行われたこのプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、完結年の今年度は18名の学生スタッフの発案・運営による7企画13公演が行われた。これらは、プロジェクトの核となる公演を中心に立案され、学生たちの手によって運営されて、教職員や地域の方々延べ2,300人にご参加いただいた。

今年度の中心は、0才からの子どもを対象とした「Concert for KIDS～0才からのクラシック」であり、11月8日（黒崎市民会館）と9日（新潟大学会館）に行われた。このメイン企画では Sony Music Foundationの協力を得て、NHK交響楽団打楽器奏者の竹島悟史氏、同団チューバ奏者の池田幸広氏、日本フィルハーモニー交響楽団フルート奏者の真鍋恵子氏、そしてピアノ集団「ザ・ピアノ」のメンバーとして活躍する森浩司氏によるアンサンブルを招き、〈チャルダッシュ〉（モンティ）や〈黒鍵のエチュード〉（ショパン）、〈エンターテイナー〉（ジョプリン）や〈熊蜂の飛行〉（リムスキー=コルサコフ）などの名曲が演奏された（IAS共催）。また、途中で導入されたリズム遊びなどを通して0歳の子どもたちも反応し、参加できるような1コマも設定され、聴衆は単なる「聴く側」の壁を越えて演奏者と一体となった。

また、9月にはアメリカ最古の歴史を誇るニューヨークフィルの教育部門に属するティーチングアーティストたちを招聘し、付属長岡小・中学校と連携して聴衆との一体化を可能にするコンサートの新しい方法論に触れた。ヴァイオリンのジェイニー・チョイ氏、チェロのウェンディ・ロウ氏、打楽器のジャスティン・ハインズ氏、ピアノのジヘー・ホン=パク氏、ヴィオラの植村理一氏（賛助出演）、そしてクラリネットの元木瑞香氏（賛助出演）らは、聴衆との接点を結ぶ entry point（切り口）を通してリズムやメロディの表現性を共有することによって、音楽の楽しさを伝える。聴衆のその時の気分を即興演奏で自由に表現してみせるなど、感情と音楽がいかに繋がっているのかも具体的に体験させた。

このコンサートは3年計画で始まった新プロジェクトの第1弾であり、付属学校の生徒や父兄、教育学部の教職員や学生、並びに地域の方々1300名余りが彼らの方法論に触れて啓発を受けた。2010年度には彼らを招いた第2弾が行われる予定で、その方法論に啓発を受けた学生たちが彼らと直接コミュニケーションを取り、指導を受けながら、自ら新しい方法論を立案してコンサートを実施する。

これらについては、<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/index.html>に詳しい報告文やチラシ、プログラムのデータ版が掲載されているので、そちらをご参照いただきたい。



MUSIC FROM LIFE

ミュージシャンと音楽をあそぼう！～ニューヨークからの贈り物～  
ニューヨークフィルの仲間による親子コンサート

9月26日

コンサート 13:30開演 (13:00開場) 公演時間40分の予定  
シンポジウム17:00開演(16:30開場) 公演時間40分の予定  
演奏終了後14:45～16:00の予定  
(20分間の質疑応答も予定)

会場 新潟市民芸術文化会館リハーサルホール

入場無料ですが、事前の申し込みが必要です。(座席時間  
定員400人、定員に達し次第、締め切らせていただきます)

■出演者  
ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団首席 ヴァイオリン  
(ジェニー・チョイ)  
ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団首席 チェロ  
(ウェンディ・ロウ)  
ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団首席 打楽器  
(ジャスティン・ハインズ)  
ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団首席 ピアノ  
(ジヘー・ホン=パク)  
賛助出演 ヴィオラ (植村理一氏)  
賛助出演 クラリネット (元木瑞香氏)

平城21年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業

日本音楽財団

■主催：日本音楽財団(代表理事) 新潟市教育委員会  
■協賛：新潟市教育委員会 新潟市教育委員会  
■協賛：新潟市教育委員会 新潟市教育委員会  
■協賛：新潟市教育委員会 新潟市教育委員会  
■協賛：新潟市教育委員会 新潟市教育委員会  
■協賛：新潟市教育委員会 新潟市教育委員会  
■協賛：新潟市教育委員会 新潟市教育委員会  
■協賛：新潟市教育委員会 新潟市教育委員会

MUSIC FROM LIFE		出演者プロフィール
ジェニー・チョイ (ヴァイオリン)	Jenny Choi/Violin	7歳からクラシックを始め、10歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。12歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。15歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。18歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。
ウェンディ・ロウ (チェロ)	Mendy Law/Cello	ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。10歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。13歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。16歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。
ジャスティン・ハインズ (打楽器)	Justin Hines/Percussion	ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。10歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。13歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。16歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。
ジヘー・ホン=パク (ピアノ)	Jihe Hong-Park/Piano	ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。10歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。13歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。16歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。
植村理一 (ヴィオラ)	Riichi Uemura/Viola	ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。10歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。13歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。16歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。
元木瑞香 (クラリネット)	Mizuka Motoki/Clarinet	ニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。10歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。13歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。16歳でニューヨークフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターの指揮を受ける。

申し込み方法  
所在地を記入し、「お申し込み」ボタンを押す。メール、アクセス、または電話でお申し込みください。アクセスによる申し込みは、記入漏れの原因が多いため、お申し込みの際は、必ずお申し込みの欄に「お申し込み」の文字を記入してください。お申し込みの欄に「お申し込み」の文字を記入してください。

申し込み先  
〒950-8181 新潟市西区長十二番二番地1000  
<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/index.html>

### 佐渡豊岡地区祭礼の参加

4月12日、佐渡市豊岡地区の祭礼（鬼太鼓）に森下研究室所属の学生全員が参加した。祭りに先立って3月30日～4月3日、地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。一端大学に戻り、祭礼の前日佐渡入りをし、地元の方々と共に祭礼の準備にあたった。学生にとっても学ぶことが非常に多く、また、地区の方々にも多少のお役には立てたのではと思っている。この活動は新潟日報4月16日号20面に写真特集として取り上げられ、またNHK等のニュースでも取り上げられた。なお、活動は2010年以降も継続して行う予定である。



### 村上市立西神納小学校訪問演奏

9月29日、村上市立西神納小学校に訪問演奏に出向いた。これはコレギウム、音楽教育入門の授業の一環として行っているもので、学校教員養成課程音楽教育専修の学生を中心に、将来教員志望の芸術環境創造課程音楽表現コースの学生、計30余名で行ったものである。当日は学生の創作オペレッタ「ともだちほしいなおおかみくん」を上演し、好評を博した。

### 附属幼稚園訪問演奏

11月18日、附属幼稚園、訪問演奏を行った。音楽科の宇野ゼミ、森下ゼミの学生と幼児教育科3年生による音楽劇「ピーターと狼（プロコフィエフ）」を上演した。音楽科は管弦楽を組成し、その演奏に合わせて、手作り衣装による幼児教育科の学生が演じるというものであった。台詞や音楽はほぼ原曲通り行ったため、困難な点もあったが、園児や保護者にはたいへん好評であった。



○ 芸術環境講座 美術科

アートクロッシング2009 NIIGATA（西区DEアート）

Final～はじまりの場所から～

芸術、教育、街造り、異なる三つのベクトルを一つに集約する“コミュニケーションとしての芸術”をキーワードとして社会における実践的活動と大学における学習の有機的なつながりを模索しながら2001年から開催してきたアートクロッシングを通して、交渉や広報活動、芸術活動と作品発表の推進、マネジメント、招聘アーティストの制作サポート等多様なプロセスを学生自ら企画実践してきた。

2009年の今回は、政令指定都市となった新潟市の“特色ある区造り事業”の一環として2007年から三年計画で開催された西区DEアートの完成年度として、また2001年のプロジェクト（うちのDEアート）の発足から10年という節目にあたり、これまでの活動の集大成という設定で行った。研究室ゼミ、学生、教員、内野在住アーティスト、招聘アーティスト、水と土の芸術祭協賛、その他を含めて合計31の企画が行われた。

新聞雑誌の掲載 8件、テレビ・ラジオ 6件、観客動員数 4000人以上



穴 the 空（招聘アーティスト茂井健司氏のランドアート）



## ○ 学習社会ネットワーク課程の特色ある教育活動

学習社会ネットワーク課程では、授業の一環として地域社会及び海外の大学と連携した特色ある教育の場を提供し、学生の多様な学習活動を支えています。今年度から学部間交流協定に基づく交換留学制度が発足し、北京師範大学珠海分校から6名、北京聯合大学から2名の学生が留学してきました。本課程からも北京師範大学珠海分校に2名、北京聯合大学に1名の学生が留学し、国際交流が日常のこととなっています。留学生に触れることで在學生も自ずと視野も広がります。来年度前期には中国から7名、新潟から3名が留学。後期には、中国から12名の留学生がやってきます。新潟からどのくらいの留学希望者が出るか、楽しみです。

- (1) 学社連携事業「まなび屋」は、学習社会ネットワーク課程と新潟市西地区公民館との共同企画で、毎週木曜日に地域の子供達に、学校とは異なる学びの場を提供しています。毎週の活動やイベントの企画、運営、渉外、学びの時間など、事業実施に関わる様々な活動を学生主体で行っています。スタッフには、学習社会ネットワーク課程の学生だけでなく学校教育課程、人文学部、法学部の学生達も加わっており、様々な専門分野の学生が集う「学生にとっての学びの場」にもなっています。毎年報告集を発刊し、今年は第9集を発刊しました。
- (2) 社会教育主事インターンシップは、社会教育への理解を深めるために生涯学習行政の場での実務を経験する企画です。平成12年度から実施し、新潟市他の教育委員会のご協力を得て、今年で10年目を迎えます。毎年報告書を作成し、成果を公表しています。今年度の事業の概要は、前項の「企業等インターンシップ」で報告しました。
- (3) 本課程では、毎年中国を訪問して中国の大学生とテーマを決めて討論するとともに、社会・文化・歴史施設の見学をして国際理解を深める機会を提供しています。昨年度は本課程の取組が、文部科学省の教育GPに採択されました。今年度は取り組みを拡大し、大学生向け教材と小学生向け教材を用意しました。用意した教材は、大学生向けには「日中の歴史」と「若者文化」を取り上げたもので、11月14日に北京師範大学珠海校で開催された「第3回日中教育フォーラムin珠海」で発表。珠海校の大学生と討論・交流を行いました。小学生向け教材の一つは日本の小学生の学校生活を紹介したDVD教材で、北京師範大学惠州実験学校で教材を使った授業を行いました。このほかにも新潟紹介授業として、学生が浴衣を着て新潟甚句を披露する授業、音楽家学生による童歌と歌遊びの授業が行われました。当日は中国のマスコミ2社も取材に訪れ、夜のニュースで詳しく紹介されました。当日は2つのテレビ局が取材に来て、授業の様子をビデオに収め、学生、副学長、学部長にもインタビューをしました。その日の夜のニュースでその映像が流れ、もともと賑やかだった歓迎会の席が一層盛り上がりました。山田副学長、森田学部長のお話が立派だったのはもちろんですが、学生の態度と発言も堂々としたものでした。このプロジェクトには、学習社会ネットワーク課程学生に加えて学校教育課程の学生、人文学部の学生、教育学研究科の大学院生も参加しました。11月16日には北京聯合大学を訪問して教育交流が行われました。
- (4) 新潟市の文化及び文化施設の研究を目的とする授業科目「文化学習施設研究」(集中)では、「新潟市芸術文化会館」と「新潟市歴史博物館」の協力を得て文化・歴史施設のあり方を学び、能・狂言をはじめとした文化研究を行っています。新潟市無形文化財第1号に指定された日本舞踊「市山流」とも提携し、平成16年から市山流の公演「古典芸能を楽しむ会」のなかでワークショップに参加するなど、新潟文化の継承にも積極的役割を果たしています。

## 2. 11 高校生対象体験講義

### 第1回 平成21年6月20日（土）

講 義 題 目	講 師	参加人数
広報委員による全体説明会	中 村 和 吉	173
数学が始まる時	山 田 和 美	
中国新出土の文字資料について	鶴 田 一 雄	
漢字から見える中国史	富 田 健 之	
スポーツによるウェルネスライフ	小林 日出至郎	
自然の中の化学と薬学（1）	鎌 田 正 喜	
日本美術の特質	武 田 光 一	
“メタボ” ってな～に	山 崎 健	
数学で考える環境問題	垣 水 修	

### 第2回 平成21年7月25日（土）

講 義 題 目	講 師	参加人数
広報委員による全体説明会	中 村 和 吉	107
音楽 奥に広がる未知の世界	清 水 研 作	
教科書で教えない歴史授業	児 玉 康 弘	
ガリレオが見た宇宙、いま昔	中 村 文 隆	

## 2. 12 中・高校生及び保護者の大学見学

本学部では、今後も積極的に高校生等への説明会を開催するとともに、より身近に学部を感じてもらえるような新たな企画を設定し、優秀な人材の獲得に全力を注いでいこうと考えている。

見学校	対象者等	開催日	担当者
山梨学院大学附属高校	2年20名	5月13日	世取山 洋 介
田上中学校	1年2名	5月20日	大 庭 昌 昭
ジャパンサッカーカレッジ	3年23名	6月10日	森 恭
附属長岡小学校	60名	6月15日	学 部 長 書 道 ・ 音 楽
西高校PTA	65名	7月6日	大 浦 容 子 (堀 内 隆 行)
小千谷高校	2年35名	7月10日	荒 木 一 郎
小千谷中学	9名	7月14日	角 谷 聰
柏崎第三中学校	20名	7月15日	横 坂 康 彦
両津高校	36名	7月31日	垣 水 修
国際情報高校	55名	8月4日	篠 田 邦 彦
新発田南高校	1年88名	8月5日	高 野 道 夫
小出高校	63名	8月6日	長谷川 敬 三
十日町高校	1年186名	8月20日	相 庭 和 彦
見附高校	1年41名	9月16日	阿 部 好 策
小須戸中学	3年13名	9月24日	八 坂 剛 史
小新中学	3年12名	10月14日	足 立 幸 子
文理高校	50名	10月16日	岡 野 勉
市立山の下中学	3年7名	10月20日	近 藤 フヂエ
三条高校	PTA60名	10月21日	麓 慎 一
新潟県立正徳館高校	1年43名	10月22日	神 村 栄 一
出雲崎中学	2年5名	11月6日	堀 竜 一
附属長岡中学校	1年120名	11月12日	宮 蘭 衛

### 3 就職支援

#### 3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、平成21年10月に設置された全学教育機構全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、本年度も次のとおり、特別講座：「学校教育の現状と課題」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの岸本賢一客員教授、江端周二特任教授、渡辺伸栄特任教授、星 勉特任教授である。

##### (1) 目的

講座の受講を通して、学校教育に対する多面的な教育観を培うとともに、教育現場の実際を知り、多様な教育課題解決のために、「何をなすべきか」を考え、教師を目指す意欲を醸成する。

##### (2) 実施内容

###### ① 前期分

対象学生：学部4年生，大学院2年生

開講時間：16：30～18：00,場所：204教室

(ただし、第2回は15：30～18：00,第12回は9：00～11：00)

	実施日	テーマ(内容)	講師
1	4月23日(木)	特別講座の説明 教員採用検査に向けてのガイダンス①	岸本賢一客員教授
2	5月7日(木)	教員採用検査に向けてのガイダンス② (県教委・市教委からの説明)	新潟県教育委員会義務教育課 管理主事・大野雅人先生 新潟市教育委員会教職員課 管理主事・大矢宏先生
3	5月14日(木)	教員採用検査内容検討	岸本賢一客員教授
4	5月21日(木)	教育小論文作成講義・演習1	元 新潟教育研究所
5	5月28日(木)	教育小論文作成講義・演習2	江端周二先生
6	6月4日(木)	個人面接・模擬授業面接心得・演習	岸本賢一客員教授
7	6月25日(木)	第一次採用検査受検へのまとめ心得1	
8	7月2日(木)	第一次採用検査受検へのまとめ心得2	
9	7月9日(木)	第二次採用検査に向けてのガイダンス	
10	7月16日(木)	第二次採用検査への教養・面接演習1	
11	7月23日(木)	第二次採用検査への教養・面接演習2	
12	8月12日(水)	第二次採用検査への直前指導	
13	11月5日(木)	採用候補者への指導・助言	
14	11月12日(木)	臨時採用教員候補者への指導・助言	

###### ② 後期分

主たる対象学生：学部3年生，大学院1年生，開講時間：16：30～18：00,場所：204教室

	実施日	テーマ(内容)	講師
1	10月15日(木)	講座のガイダンス	岸本賢一客員教授
2	10月22日(木)	学習指導上の課題とその解決に向けて(その1)	江端周二 特任教授
3	11月12日(木)	学習指導上の課題とその解決に向けて(その2)	
4	11月19日(木)	教育現場が求める教師像	岸本賢一客員教授
5	11月26日(木)	生徒指導上の課題とその解決に向けて(その1)	新潟市教育委員会学校支援課 指導主事・大江謙作先生
6	12月3日(木)	生徒指導上の課題とその解決に向けて(その2)	
7	12月17日(木)	教師の資質と使命感	岸本賢一 客員教授
8	1月7日(木)	教育公務員の服務勤務	江端周二 特任教授
9	1月21日(木)	学校教育の課題とその解決に向けて	渡辺伸栄 特任教授
10	1月28日(木)	本講座のまとめと次年度講座に向けて	星 勉 特任教授

### 3.2 公務員志望向けガイダンス

今年度は本学部独自の公務員試験対策講座を1回催した。

#### 「公務員就職を希望する3年生のための就職セミナー」

12月14日に「公務員試験内定者からの合格体験談」を催した。来年度公務員就職を希望している人が、今年内定を果たした先輩方の体験談を聞き、質疑応答を行った。

発表者は、田村武裕さん（学校教育課程）、石田晴香さん（生活環境科学課程）、高柳昌洋さん（健康スポーツ科学課程）の3名、参加者は8名であった。昨年度より参加者は若干少なかったが、開催時期が遅くなったこととの関係が考えられる。

参加者からは、「民間との両立話が聞けてよかった」「様々な体験談を聞けてよかった」「民間との両立を考えており不安だったが励みになった。面接練習の大切さを知ることができた」等の意見が聞かれ、概ね好評であったが、一方で「もっと周知に力をいれてほしい」「事前に発表者の内定先を教えてほしい」等の意見も出されたため、来年度以降の検討課題としたい。



### 3.3 一般企業志望学生向けガイダンス

今年度は本学部独自の一般企業志望学生向けセミナーを2回開催した。

#### 第1回「民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー」

12月8日に、「民間企業内定者からの合格体験談」を催した。既に民間企業への就職活動を開始、あるいは開始しようと考えている人が、今年内定を果たした先輩方の体験談を聞き、質疑応答を行った。

発表者は、齋藤恵さん（芸術環境創造課程）、田代千佳子さん（芸術環境創造課程）、西脇健太さん（学校教育課程）の3名、参加者は21名であった。

参加者からは、「就職活動について疑問に思っていたことが解決できてよかった」「じかに先輩の話聞くことができてよかった」「具体的な体験談と感じたことなどを話して下さったのでためになった」と評価する一方、「もっといろいろな会社の内定者のお話も聞きたかった」「セミナーの開催時期を早めてほしい」等の意見も出されたため、来年度以降の検討課題としたい。



#### 第2回「就職何でも相談会」

12月17日に、「就職何でも相談会」を催した。このセミナーは、まだ就職の決まっていない、進路に迷っている4年生を対象に、就職活動での悩み等を相談できる場を提供する目的で開催した。

講師には、本学キャリアセンター特任専門職員川端由美子さん（キャリアコンサルタント）を招き、これからの就職活動について、企業が求める人材について、応募書類作成のポイント、面接時の注意点等について細かな説明を受け、希望者には個別相談を行った。

参加者は3名と少なかったが、最終的には参加した3名全員が内定を果たすことができ、今後はこのような会をより早期に開催し、就職に関する支援体制を充実させることとしたい。

### 3.4 臨時教員希望者への就職支援

全学教育機構全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

#### (1) 「臨時採用教員希望者登録ガイダンス」

日時：平成21年11月12日（木）16：30～18：00

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時採用教員希望者登録ガイダンスを行い「小・中・高・特別支援学校臨時教員採用希望調書」を配付した。また、岸本賢一全学教職支援センター客員教授より、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、登録者のメールアドレス（学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp）に随時送信を行った。

#### (2) 平成22年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「小・中・高・特別支援学校臨時教員採用希望調書」（登録者数104名）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会及び学生から希望のあった県外の13府県教育委員会（岩手県、福島県、栃木県、埼玉県、千葉県、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、大阪府、広島県）に送付し採用をお願いした。

また、下記の教育委員会等へは、副学部長等が訪問し、採用をお願いするとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪問先	期日	担当者	
		教員	事務職員
中越教育事務所 上越教育事務所 長岡市教育委員会 上越市教育委員会	12月14日（月）	近藤副学部長 岸本客員教授 江端特任教授 星 特任教授	高橋学務部教務課 全学教職支援事務 室主任
下越教育事務所 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会	12月17日（木）		

## 4. 学部FD

### 1. 第1回

日時 2009年5月14日(木) 17時30分～18時

会場 大会議室

参加者 46名

テーマ

○「平成21年度教育学部TAに関する研修会」 五十嵐尤二

昨年度に引き続き、大学院学務委員を講師としてTAに関する研修会を実施した。TAの業務、TAの業務ではない仕事、TAの拘束時間、セクハラ・アカハラの注意点、個人情報取り扱い、アンケート調査およびTA実施報告書などについて、詳細な説明が行われた。そもそもTAとは、新潟大学の非常勤職員就業規則に規定する「パートタイム職員」の身分であることなど、改めて気づかされることが多く、有意義な研修会であった。TAに対する説明会は、全体で行うか個別に行うか、後日検討することとなった。

### 2. 第2回

日時 2009年12月21日(月) 16時～17時40分

会場 106演習室

参加者 18名

テーマ

①「家庭科における研究教育実習」 高木幸子、荻野真美(附属新潟小学校)

②「数学科における研究教育実習」 榎根浩(附属新潟小学校)

教育学部フレンドシップ事業の一環として計画された学習・講演会を、昨年同様学部FDとして実施した。4年一貫の教育実習の最後に位置づけられている「研究教育実習」には、まさに多様な展開が存在することが改めてよく分かる内容であった。多くは卒業論文に直結する実践を行っているが、必ずしもそればかりではないことが分かった。近い将来にこれをカリキュラム化するためには、実施形態や内容、実施学年など、協議・決定しなければならないことが多い。しかし、今回は、発表者にも現れているように、受入側の附属新潟小学校・新潟中学校の教員が多数(6名)参加され、充実した会となった。

### 3. 第3回

日時 2010年3月21日(日) 16時～17時

会場 大会議室

参加者 約50名

テーマ

○「特別支援教育とは」 有川宏幸

平成18年度から、従来の教育褒賞制度に代わって「学長教育賞」制度が始まった。これは、学生と教員が、全授業からモデルとすべき優れた授業を推薦し、その中から毎年1名の授業担当者を選んで、学長が表彰するというものである。本学部からは、発足年度の平成18年度に美術科教育の柳沼宏寿先生、平成20年度には音楽科教育の伊野義博先生が受賞されている。

平成21年度の今年度は、特別支援教育の有川宏幸先生が第4回目の受賞者として選出された。そこで、今年度の学部FDの最後を飾り、有川先生から効果的な教授法や学習支援の方法についてご紹介いただき、今後の授業の参考にさせていただくことにした。



## 5 地域貢献

### 5.1 12年研修

#### 21年度 新潟市12年経験者研修「教科指導研修」

##### 1. 新潟市12年経験者研修「教科指導研修」の概要と特徴

12年経験者研修（以下12年研と表記）とは、教特法第24条の規定に基づく法定必修研修である。平成16年度に新潟市教育委員会と新潟大学教育学部（当時・教育人間科学部）との連携活動として取り組み始めた12年研は、本年度で6年目を迎えた。特に、12年研の中の「教科指導研修」について、両教育研究機関が組織的に連携して取り組み、一つの特徴ある取り組みとして定着している。新潟市12年研における「教科指導研修」の特徴は、新潟市立総合教育センター指導主事と新潟大学教育学部教員とがチームを組んで、夏季協業中の3-4日間を中心にして、少人数でのチームティーチングの指導体制をとっていることである。毎年、40名前後の学部教員が本「教科指導研修」に協力・参加し、指導主事とともに受講者の教科指導力向上のために、きめ細やかな指導につとめている。本年度もほぼ同様の参加・協力があつた。

尚、本活動については、以下に紹介した。参照願いたい。

宮園衛「一人一人の教員研修を支える教育学部と総合教育センターのパートナーシップ—12年研「教科指導研修」の意義とその連携体制構築について—」（新潟市立総合教育センター 『センターだより』第156号、2009年11月）

##### 2. 平成21年度「教科指導研修」の概要

###### (1) 12年研受講者数

過去6年間の12年研修了者数（小・中・特別支援学校）は、以下の通りである。年度により、修了者数（受講者数）に大きな変動がある。今年度は、113名であった。

表 過去6年間の12年研修了者数の変化（人）

年 度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
修了者数	98	180	96	54	129	113

###### (2) 平成21年「教科指導研修」日程

平成21年度の「教科指導研修」の特徴は、第1回（6月4日）に「前研修」を設けたことである。従来、夏季休業中に実施していた「教科指導（特別支援教育）の基礎・基本」についての講義・演習を、約2ヶ月前に前倒しして実施した。このために、受講者・指導者の双方にとって、夏季休業中の研修に余裕ができた。従来、夏季休業中は4-5日間の「教科指導研修」が組まれていたが、本年度から3日間になり、余裕をもって研修に取り組むことが出来た。（免許更新講習との日程調整に苦勞することもあるが）

今年度の「教科指導研修」日程は以下の通りである。

表 平成21年度12年研「教科指導研修」日程一覧表

回	実施日	内容 / 備考
	5月7日(木) 午後4時30分 - 5時30分	○「教科指導研修」指導者事前打合せ (会場：新潟大学教育学部) ・市教育委員会指導主事・学校長等も
第1回	6月4日(木) 午後半日	○「前研修」 (会場：市センター) ※次年度受講者に実施。新潟大学教官を講師として、「教科指導(特別支援教育)の基礎・基本」についての講義・演習を行った。尚、本「前研修」には12年研修受講者以外の受講者の参加が可能。
第2回	8月7日(金) 1日	○教科指導研修① (会場：市センター・新潟大学教育学部)
第3回	8月17日(月) 1日	○教科指導研修② (会場：市センター・新潟大学教育学部)
第4回	8月24日(月) 1日	○教科指導研修③ (会場：市センター・新潟大学教育学部) ※模擬授業
	(9月～11月)	○代表者授業研究 ○校内授業研究 (会場：各学校)
第5回	12月24日(木) 午後半日	○研修のまとめ (会場：学校)

### 3. 「教科指導研修」の成果と課題

#### (1) 成果—受講者からの高い評価—

新潟市12年研「教科指導研修」の特徴は、指導主事と学部教員がチームを組んでの少人数指導にある。受講者の評価は非情に高い。過去5年間の受講者の評価(満足度調査)結果は、以下の通りである。年々、A評価の割合が増加し、平成21年度には97.4%にも達している。その理由として以下の点が挙げられる。

- ① 指導主事と学部教員とのチームティーチングによるきめ細かな少人数指導が徹底され、受講者の主体的参加が保証され、また受講者の要求や課題に応える研修内容となっているのではないか。
- ② 広い視野から、専門的かつ先進的な指導を受け、受講者が中堅教員としての力量を身に付けることができているのではないか。(新潟市立総合教育センターの分析)

表 「教科指導研修」講座受講者の評価(数値単位は%)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
A	52.4	67.4	76.3	92.0	97.4
B	41.0	29.5	23.7	8.0	2.6
C	6.6	3.1	0	0	0
D	0	0	0	0	0

(データ提供：新潟市立総合教育センター)

#### (2) 課題

- ① 教科によって協力体制に差がある。さらに多くの学部教員の参加があるとよい。
- ② 市センター及び学校支援課に専門教科の担当指導主事がいなく、受講者の人数に見合った指導主事の配当ができないという現状がある。毎年市内の小・中学校の校長・教頭に指導者のお願いをしている。
- ③ 小学校国語、算数の受講者が多い。研修教科選択を安易に行っている傾向がある。年度末に行う事前調査の際に、熟考し、将来専門性を高めていきたい教科を記入するよう働きかける。
- ④ 新潟大学を会場にした場合、駐車場確保が困難である。たくさん荷物がある場合大変困る。(教員免許更新講習の実施と重なることに伴う問題点)

※注) 新潟市立総合教育センターの分析等を踏まえて、本報告書を作成した。(文責：宮園 衛)

## 5.2 市民・教員を対象とした公開講義

### 新潟大学新潟駅南キャンパス（通称：ときめいと（旧：CLLIC））等開設公開講座

教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、「ときめいと」や教育学部校舎等を使用して様々な講座を開講し、生涯学習社会に生きる人々の一助となるよう心がけている。

小学生から自然に親しむキャンプ・スキー教室、臨床心理士資格を目指す学生などに対する心理臨床セミナー、発表会が楽しいピアノ講座など、本学部ならではの講座等を開設した。

以下に、今年度の実施状況を示す。

#### 新潟大学新潟駅南キャンパス（ときめいと）等開設公開講座一覧

講 座 名	
一般 教養 講座	大人のためのピアノ講座～もしもピアノが弾けたなら～
	第5回ペーパークラフトでひろがる算数・数学の世界
	小中学生キャンプ教室
	小中学生スキー教室
	親子でとりくむ楽しいリズム体操A・B
	数学発想スーパーセミナー
	中高齢者を対象としたエクササイズプログラミングのワークショップーハイブリッド・プロフェッショナルをめざして-
	中高齢者の身体機能改善プログラム-着実に効果を出すために-
	ビジネス書道入門
	やさしい「日本画」の愉しみ方
教員・ 教員 志望者 等 講座	心理療法の実際
	「認知行動療法」で生活の質を高めよう！(2)
	心理臨床セミナー
	国語科学習指導に関する一人前レベルの知識・技術
	小学校家庭科担当教師のための授業・教材研究
	新潟大学免許法認定講座「キャリア教育特論」
	新潟大学免許法認定講座「学校臨床心理学特論Ⅳ」
	新潟大学免許法認定講座「地域史の視座と歴史教育・特論」
	新潟大学免許法認定講座「体育学特論」
	新潟大学免許法認定講座「理科教育学特論」
新潟大学免許法認定講座「道徳教育特論」	

### 5.3 教育委員会との連携事業

#### ○ 教育委員会との連携協定

##### ・ 新潟市教育委員会との教育懇談会

新潟市教育委員会と3回目となる教育懇談会を開催した。

「教育委員会が期待する教員の資質・能力について」、「連携事業の現況と課題について」「現職教員の大学院における研修を促進する方策について」などについて意見交換を行った。

##### ・ 見附市教育委員会と連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内の小学校7校、中学校4校に学習支援（自然教室、水泳教室、補充教室、部活動指導、実験、工作教室）のためのボランティアを派遣した。

短期派遣で、合計72人（延べ195人）を派遣した。

##### ・ 三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小学校3校、中学校1校）」へ5人、「三条市科学フェスティバル」へ10人、「放課後子ども教室」へ8人を派遣した。

また、三条市との運営協議会（H21.10.26）を開催して、今後の連携について意見交換を行った。

## ○ 心のケア

### 「児童生徒の心のケア推進事業」（長岡市教委との連携事業）の概要

#### 1. 目的

中越大震災における心のケアは、長期的、継続的な対応が必要である。そこで、学校内における心のケア体制を充実させるために、心のケア担当教諭や養護教諭に対して、専門的な立場からカウンセラーが指導・研修を行う。

#### 2. 内容

カウンセラーによる心のケア校内体制支援、および心のケア実施のための養護教諭支援として、次の3つの事項を実施する。

##### (ア) カウンセラーによる心のケア担当教諭への指導等（17年度より実施）

養護教諭、その他の心のケア担当教諭がカウンセラーから個別指導等を受け、児童生徒の心のケアに生かす。

##### (イ) カウンセラーによる心のケア担当教諭の研修会（事例検討会）（17年度より実施）

心のケア担当教諭が行う心のケアの事例検討会において、カウンセラーから指導方法の研修を受ける。

##### (ウ) カウンセラーによる養護教諭支援（18年度より実施）

心のケアの必要な児童生徒を抱えている学校の養護教諭を対象に、コンサルテーションを実施する。

#### 3. 本学部の役割

本事業は、長岡市教育委員会との連携事業であり、上記のような事業に対して、本学部から実施場所である「長岡市教育センター」に下記のとおりカウンセラーを派遣した。

#### 4. 窓口（コーディネーター）

教育実践総合センター・教育臨床研究部門（松井賢二）が本学部の窓口（コーディネーター）を担当した。

月 日	時間 <sup>(注1)</sup>	内容 <sup>(注2)</sup>	相談件数（参加人数）	カウンセラー
7月16日（木）	9：00～16：00	(ア) (ウ)	4件（4人）	増 澤 菜 生
8月5日（水）	9：00～16：00	(ア) (ウ)	4件（4人）	横 山 知 行
10月28日（水）	9：00～16：00	(ア) (ウ)	4件（4人）	柳 田 多 美
11月11日（水）	15：00～16：30	(イ)	1件<全体研修会>（86人）	神 村 栄 一
1月18日（月）	9：00～16：00	(ア) (ウ)	4件（6人）	有 川 宏 幸
2月5日（金）	10：00～16：00	(ア) (ウ)	4件（6人）	長 澤 正 樹
合計			21件（110人）	

注1：「時間」の欄で、12：00～13：00は昼食及び休憩時間である。

注2：「内容」の欄で（ア）とは「カウンセラーによる心のケア担当教諭への指導」

（イ）とは「カウンセラーによる心のケア担当教諭の研修会（事例検討会）」

（ウ）とは「カウンセラーによる養護教諭への支援」

のことである。

## 5.4 新潟大学免許法認定公開講座

小・中・高等学校いずれかの1種免許状を取得し、3年以上の教職経験を有する者を対象として、専修免許状取得のための学修機会を提供し、現職教員の資質向上に寄与することを目的として開設された。

本年度も昨年度に引き続き、計6科目を実施した。その概要は以下のとおりである。

開設科目	学校臨床心理学特論Ⅳ	キャリア教育特論	地域史の視座と歴史教育・特論	体育学特論	理科教育学特論	道徳教育特論
日程	7月27日 7月28日 7月29日 7月30日	8月1日 8月2日 8月29日 8月30日	8月3日 8月4日 8月5日 8月6日	8月19日 8月20日 8月26日 8月27日	9月5日 9月6日 10月3日 10月4日	9月19日 9月20日 12月26日 12月27日
会場	新潟大学 新潟駅南 キャンパス	新潟大学 教育学部	新潟大学 教育学部	新潟大学 教育学部	新潟大学 教育学部	新潟大学 教育学部
担当講師	神村 栄一	松井 賢二	田村 裕	森 恭 小林日出至郎	川勝 博 興治 文子	齋藤 勉 中野 啓明
授与単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
講義時間	30時間	30時間	30時間	30時間	30時間	30時間
受講者	6人	12人	9人	11人	5人	9人
単位取得者	6人	12人	9人	11人	5人	8人

## 5.5 新大なんでもスポーツプロジェクトについて

平成18年度から保健体育・スポーツ科学講座ではじめた新大なんでもスポーツプロジェクトは今年で4年目を迎えました。本プロジェクトの目的は次の3点であります。

1. スポーツ本来の楽しさを味わいながら、将来の豊かなスポーツライフづくり
2. スポーツを通じた、地域交流の促進
3. 新潟大学保健体育・スポーツ関連大学生、大学院生のスポーツ実践指導力の向上

参加者も年々増加し、今年は12コースを開講して773名が参加していただきました。このように、なんでもスポーツへの参加者が増えた理由については、地域における豊かなスポーツライフづくりへの貢献によりリピーターも毎年増えていったこと、参加者の口コミによる活動の伝達が功を奏したと思います。次年度に向けてよりよい「なんスポ」を目指すためには、市民の実態に応じた各コースの内容や指導法の改善・工夫、さらには地域との連携を深めて各種イベントとの連携も重要になってくるものと考えます。広報の工夫により、参加者がさらに増えることを祈ってよりよい新大なんでもスポーツプロジェクトを展開していこうと考えております。

## 5.6 委員等就任状況

### 《主な委員就任状況》

#### 新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県男女平等社会推進審議会委員』
- 『大規模小売店舗立地審議会委員』
- 『文化財保護審議会委員』
- 『環境審議会委員』
- 『環境影響評価審査会委員』
- 『新潟県教科用図書選定審議会委員』
- 『新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会委員』
- 『新潟県住宅防火対策推進会議委員』
- 『キャリア教育実践研究会委員』
- 『新潟県社会福祉審議会委員』
- 『新潟県教育職員特別免許状検定協議会委員』
- 『平成20年度新潟県体力・生活実態調査協力者』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『青少年健全育成審議会委員』
- 『小学校教育研究会学習指導改善スーパーバイザー』
- 『教育総合研究センター研究委員』
- 『新潟県教育委員会スクールカウンセラー』
- 『自然体験活動指導者養成事業運営会議委員』
- 『新潟県にぎわいのあるまちづくり審議会委員』
- 『新潟県キャリア教育パイロット事業協力者会議座長』
- 『新潟県公害審査委員会委員』
- 『尾瀬環境学習プログラム作成委員』
- 『平成21年度発達障害者支援のためのサポートノート作成ワーキンググループ構成員』
- 『教育総合研究センター第一研究委員会研究委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会委員』
- 『新潟県子どもの体力向上支援委員』
- 『新潟コンベンションセンター等指定管理者審査委員会委員』
- 『新潟県次世代育成支援協議会委員』

#### 新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市病院事業運営審議会委員』
- 『新潟市スポーツ振興審議会委員』
- 『新潟市都市計画審議会委員』
- 『平成21年度新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』

『新潟市歴史資料及び文学資料選定委員会委員』  
『新潟市環境審議会委員』  
『相談員』  
『新潟市奨学生選考委員会委員』  
『にいがた住まいの基本計画推進有識者会議委員』  
『スポ柳都にいがたプラン推進会議委員長』  
『新潟市景観アドバイザー』  
『新潟市教育ビジョン推進委員会委員』  
『水と土の芸術祭（仮称）実行委員会委員』  
『新潟市花育推進計画策定委員会委員』  
『新潟市発達障がい者支援体制整備検討委員会委員』  
『就学指導委員会委員』  
『（仮称）新潟市子ども読書活動推進計画策定有識者会議委員』  
『精神医療審査会委員』  
『佐潟学術研究審査会委員』  
『新潟市環境影響評価審査会委員』  
『新潟市建築物総合環境性能評価制度策定有識者会議委員』  
『西区健康づくりウォーキングロードマップ作成事業実行委員』  
『にいがた市民健康づくりアクションプラン市民向けパンフレット作成会議委員』  
『新潟市特別教育サポートセンター専門家チーム委員』

## 長岡市

『スポーツ施設指定管理者選定委員会委員』  
『小中連携のあり方を考える懇談会委員』

## 新発田市

『新発田市景観アドバイザー』  
『新発田市子ども発達相談事業スーパーバイザー』

## 見附市

『学校評価アドバイザー』

## 第64回国民体育大会新潟県準備委員会

『競技専門委員会委員』  
『式典運営部会委員』  
『式典音楽部会委員』

## トキめき新潟国体・トキめき新潟大会実行委員会

『式典専門委員会副委員長』  
『競技役員』



## 文部科学省

『中央教育審議会専門委員（大学分科会）』

国際大学スポーツ連盟（F I S U）理事

## 国立教育政策研究所

『中学校における組織的・系統的なキャリア教育の充実についての調査研究 研究協力者』

『学力の把握に関する研究指定校事業の支援及び調査研究報告書作成 企画委員』

## 国立特別支援教育総合研究所

『平成21年度基幹研究 研究協力者』

## 環境省

『平成21年度越境大気汚染・酸性雨対策検討会検討員』

## 日本学術会議

『日本学術会議連携会員』

## 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

『共同研究員』

## (独) 日本学術振興会

『科学研究費委員会委員』

『大学教育等推進事業委員会大学部会書面審査委員』

## (独) 産業技術総合研究所

『客員研究員』

## (社) にいがた緑の百年物語緑化推進委員会

『推進委員会委員』

## (財) 新潟県国際交流協会

『新潟・国際協力ふれあい基金事業審査委員』

## (財) 新潟県中越大震災復興基金

『新潟県中越大震災復興基金理事』

## (財) 高輝度光科学研究センター

『利用研究課題審査委員会分科会レフェリー』

## (財) 日本環境衛生センター

『EANET陸水技術マニュアル改訂のための専門家グループ委員』

『国際データ検証グループ委員』

『平成21年度酸性沈着の生態系影響評価ワーキンググループ委員』

『酸性雨問題啓発委員会委員』

**(財) 尾瀬保護財団**

『理事』『評議員』『尾瀬賞運営委員』

**阿賀野市社会福祉協議会**

『こどものことばとこころの相談室 学童部・幼児部 スーパーバイザー』

**(株) 新潟日報社**

『第44回新潟県音楽コンクール予選審査会審査員』

『いきいきわくわく科学賞2009審査委員』

**東日本高速道路 (株)**

『新潟ハイウェイ懇談会委員』

**国土地図 (株)**

『治水地形判定委員会委員』

## 6 国際交流

### 6.1 「日中教育フォーラムin 珠海」の共催

2009年11月14日に、北京師範大学珠海分校で「日中教育フォーラムin 珠海」が開催されました。2007年新潟大学で開催した「第一回日中教育フォーラムin 新潟」の珠海版で、2008年度の北京での開催に続く第三回のフォーラムです。北京師範大学珠海分校は中国広東省珠海市（人口120万人）にあります。「分校」とはいうものの、新潟大学五十嵐キャンパスの50倍の広さの美しいキャンパスのなかに、20近い学院（日本の学部に対応します）や研究所を備えた、大きな大学です。

新潟大学からは、学生22名、山田好秋副学長（国際交流担当）、森田教育学部長、教育学部教員6名、附属新潟小学校教員3名、新潟市教育委員会と新潟市小学校長会からそれぞれ1名、学部事務職員1名が参加しました。北京師範大学珠海分校の呉忠魁副学長、王建成教育学院長を始めとする教育学院の先生方、学生の皆さんの盛大な歓迎を受け、午前の全体会、午後の3つの部会（学生部会、大学教員部会、附属学校部会）、夜の交流会と歓迎会と、充実した内容のフォーラムになりました。

午後の学生部会では、学生たちが練り直し練り直して苦労の末に作り上げたパワーポイントでの教材が、大変好評でした。日中の歴史を取り上げた今回は、学生たちの歴史認識を鍛え、「自分たちがこれからの世界を担う」という自覚と責任を意識させる効果を持ったようです。もう一つのテーマの「文化」は、音楽やファッションなど、楽しい内容がたくさん盛り込まれ、日中の学生が同じ文化を享受していることが実感されたそうです。その日の夜に行われた学生交流会も大いに盛り上がりました。

### 6.2 北京師範大学珠海分校ならびに北京聯合大学国際交流学院との「学生交流に関する覚書」による留学生枠の拡大

2008年に、北京師範大学珠海分校教育学院ならびに北京聯合大学国際交流学院との間で、学部間交流協定に基づく「学生交流に関する覚書」を交わしました。締結時には、北京師範大学珠海分校との留学生枠は年間2名でしたが、2009年度からは5名に拡大。さらに2010年度からは10名に拡大することが決まりました。同じく北京聯合大学との留学生枠は年間1名でしたが、2010年度からは2名に拡大します。両大学に留学する際には、入学金ならびに授業料が免除されます。

北京聯合大学からは、今年度前期に留学生1名、後期に1名が新潟を訪れ、それぞれ6ヶ月間の日本語・日本文化研修をうけました。北京師範大学珠海分校からは前期に2名の学生、後期に4名の学生が、それぞれ半年の予定で本学部に留学してきました。どの留学生もみな、教育学部の学生と積極的に交流し、新潟が大好きになって帰国しました。

本学部からは、今年度前期に北京聯合大学に1名が留学しました。北京師範大学珠海分校には1名の学生が1年間の予定で、後期には1名が半年の予定で留学しました。3名とも中国語が目覚ましく上達しました。2010年度の留学生として、北京聯合大学に2名、北京師範大学珠海分校に1名が、中国の新学期である3月に間に合うよう出発しました。皆、元気で頑張っています。

### 6.3 学部教育の国際化事業

本学部では、平成13年から継続して中国との教育・研究交流を続けてきました。本年度はその成果として2つの事業が行われました。

その成果の一つは、今年度の11月14日に中国の広東省珠海市にある北京師範大学珠海分校で開催された、第3回日中教育フォーラム「グローバル社会と教育」です。記念すべき第1回の日中教育フォーラムは、平成19年5月に新潟大学教育人間科学部で、本学部と北京師範大学との共同で開催。第2回は平成20年4月に中国北京市の北京師範大学教育学院で、同学院と本学部との共同で開催。今年度が第3回で、北京師範大学珠海分校と本学部の共同開催です。午前の全体会、午後の3つの部会からなる充実した内容のフォーラムになりました。

北京師範大学珠海分校とは昨年度に学部間交流協定と学生交流の覚え書きを交わし、今年度は中国からは6名の学生が、日本からは2名の学生が相手方大学に留学しています。北京師範大学に1年と北京聯合大学に半年留学した学生も参加した今回の教育フォーラムでは、それらの留学生／留学経験者が大活躍しました。短い期間で目を見張るほどに上達した中国語を駆使して通訳をする彼らの姿は、今回訪中した学生たちに大きな刺激を与えました。彼らが皆、留学前はほとんど中国語ができなかったことを思うと、若い人たちの成長のスピードと可能性の幅の広さに、今更ながら心うたれます。

教育フォーラムの前日には、北京師範大学の附属学校の一つである惠州実験学校で、学生3グループと附属新潟小学校教員による公開授業が行われました。学生たちは半年前から授業案を練りました。教材を用意し、新潟甚句の踊りを習ったり合唱に磨きをかけたりした上で、附属新潟小学校をお借りしての模擬授業も各グループで数回行い、この日に備えました。当日は2つのテレビ局が取材に来て、授業の様子をビデオに収め、学生、副学長、学部長にもインタビューをしました。その日の夜のニュースでその映像が流れ、もともと賑やかだった歓迎会の席が一層盛り上がりました。山田副学長、森田学部長のお話が立派だったのももちろんですが、学生の態度と発言も堂々としたものでした。

最高気温が20度前後だった珠海から、一転、最高気温が0度の北京に移動。12月16日午前北京師範大学教育学院並びに附属学校である北京実験小学を訪問して旧交を温め、午後には北京聯合大学を訪問して教育交流が行われました。北京聯合大学とも一昨年度に学生交流覚え書きが交わされ、中国からは3名の学生が新潟大学に留学、新潟大学からは1名の学生が中国に留学しています。学生交流会ではそれらの留学生が両大学の学生を結びつけ、心開いた会話と交流を盛り上げる役割を果たしてくれました。

今回の訪中では、昨年度と今年度の前期に本学部が迎えた中国人留学生が全員、本当にかいがいしく、心を込めて私たちの面倒を見てくれました。中国人の友人がいるということの有り難さを、学生たちもしみじみと感じたことでしょう。「国際交流」と殊更に言わなくても、「中国に友人がいる」ということが心の壁を低くし、交流を促します。学生の交換留学制度が大学教育全体に好影響を及ぼすことを、実感として感じることでできた訪問でした。

成果の二つ目は、北京師範大学珠海分校の先生方による出張講義です。北京師範大学教育学院の学院長である王建成先生、副学院長の金宝城先生、同大学日本教育研究所長の胡学亮先生が2月6日から9日までの4日間、新潟大学教育学部で「日中の教育比較」と題する集中講義をしてくださいました。日本語、中国語、英語による講義です。他学部の中国人留学生も授業を聴講。教室内は日本人学生と中国人学生がともに学ぶ場となりました。双方の大学の教員による出張講義は、今後も続きます。来年度前期には、本学教育学部教員が北京師範大学珠海分校で集中講義をすることになっています。

「教員が学生を引き連れて中国に行き、数時間の学生交流をする」という国際交流は、どの大学でも見ることができます。でも今回ご報告したような、「学生が相手方の学生のことを考えて討論資料を用意し、練

り上げ、日本と中国の学生たちが通訳の役割も果たして交流する」という交流の姿、「双方の大学教員が相互に訪問して授業をする」という交流の形は、滅多に見ることができません。もちろん一朝一夕に作れるものではありませんが、国際交流のあり方としてすばらしいものだと思います。連携大学との信頼関係をさらに高める努力を教員の側で重ねることで、学生の学びの機会をこれからも多く作ってきたいと考えています。



○ 芸術環境講座 造形表現コース、学校教育美術コース

フランス美術研修とナント市訪問



新潟市とフランス、ナント市の姉妹都市提携を機にリヴェ国立高等専門学校デザインコースと美術科との交流が2008年に始まりました。

毎年行っている地域美術論の授業（2009年は、フランス美術研修）の一環で美術科学生23名、教員2名は、12月8日パリを訪れ美術館ストライキを何とか回避してルーブル美術館、オルセー美術館、オランジェリー美術館やシャルトル大聖堂、ヴェルサイユ宮殿などを見学しました。

パリの美術研修の後、昨年に引き続き12月11日ナント市を訪問しました。リヴェ国立高等専門学校およびナント市役所では大変な歓待を受け、宿泊は、当校の教員および学生の自宅にホームステイし2泊3日の滞在となりました。

ナント市は、街の発展に文化や芸術と関連させてゆく都市計画を推進しています。見学したロワール川のナント島は、島全体を芸術文化の中核エリアとして行く構想で建設が進められています。また対岸の芸術家村には住居、アトリエ、ギャラリーが一体となっていて多くのアーティストが住み付き、見学に行くとアーティスト自ら解説をしてくれました。また大手ビスケット会社が撤退した工場を改築したレストランで一緒に食事を取り大いに交流をしました。ナントの人たちがこれらの物件を非常に誇りにしていることがとても印象的でした。この後、お世話になった人たちに見送られて12月13日TGVで南仏のアヴィニヨンに向かいました。

ナントの滞在は、美術科が行っているアートプロジェクトの今後の展開においてとても示唆に富んだものでした。学生にとっては通常の海外ツアーでは得られない多くの経験と交流がこれからの人生の財産になって行くと考えます。

## 6.4 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

### ●研究者派遣

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	韓国	2015年ユニバーシアード開催都市選考のため評価訪問	2009/4/2	2009/4/10	国際大学スポーツ連盟
准教授	麓 慎一	韓国	「東アジアにおける国際関係の変容と韓国」の研究	2009/4/23	2009/8/19	(財)日韓文化交流基金
准教授	長谷川 敬三	韓国	研究会「Workshop on Geometric Structures and Equivalence Problem」に出席, 他	2009/4/26	2009/4/30	科研費基盤研究C
教授	五十嵐 久人	カナダ	2015年ユニバーシアード開催都市評価	2009/4/30	2009/5/5	国際大学スポーツ連盟
教授	石坂 妙子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と本年度の交流事業の打ち合わせ	2009/5/7	2009/5/11	基盤教育経費
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と本年度の交流事業の打ち合わせ	2009/5/7	2009/5/11	基盤教育経費
准教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と本年度の交流事業の打ち合わせ	2009/5/7	2009/5/11	基盤教育経費
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と本年度の交流事業の打ち合わせ	2009/5/7	2009/5/11	基盤教育経費
准教授	佐藤 亮一	韓国	2009Korean-Japan AP/EMC/EMT Joint Conference (KJJC2009) で研究成果発表	2009/5/13	2009/5/15	基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際スポーツ連盟 (FISU) 実行委員会に出席	2009/5/19	2009/5/25	FISU及び日本オリンピック委員会
教授	滝澤 かほる	ドイツ	国際ツルンフェスト(ドイツ体操祭) フランクフルト大会に視察調査研究	2009/5/28	2009/6/8	本人負担
教授	清水 研作	連合王国・ウクライナ	キエフ国立フィルハーモニー交響楽団演奏会で自作品発表, 他	2009/5/29	2009/6/8	基盤研究経費
准教授	佐藤 亮一	米国	2009 IEEE APS 国際シンポジウムで発表	2009/6/1	2009/6/6	科研費基盤研究B
准教授	中村 文隆	台湾	国際会議「millimeter and submillimeter Astronomy at High Angular Resolution」で発表	2009/6/9	2009/6/14	科研費基盤研究C
准教授	相庭 和彦	中国	北京連合大学訪問および東北師範大学比較教育研究所で講演	2009/6/21	2009/6/24	基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	セルビア共和国	第25回ユニバーシアード競技大会業務遂行	2009/6/23	2009/7/14	渡航費：日本オリンピック委員会及び国際大学スポーツ連盟 滞在費：国際大学スポーツ連盟
准教授	足立 幸子	米国	米国図書館協議会 (American Library Association) 年次大会に出席	2009/7/9	2009/7/15	科研費若手B
准教授	佐藤 亮一	南アフリカ	2009地球科学及びリモートセンシングに関する国際会議で発表	2009/7/11	2009/7/20	TELEC (寄附金 公益的調査)

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
准教授	工藤 起来	ブラジル	アシナガバチ類の調査, 他	2009/7/26	2009/8/12	科研費若手B
教授	五十嵐 尤二	中国	Lattice2009国際会で発表	2009/7/26	2009/7/31	基盤研究経費
教授	長岡 成夫	オランダ・ドイツ	ヨーロッパ医学・医療哲学学会第23回大会に参加	2009/8/12	2009/8/25	本人負担
准教授	渡邊 道之	韓国	International Conference on Inverse Problems and Applicationsで講演	2009/8/16	2009/8/19	科研費若手B
教授	鈴木 賢治	ドイツ	先端材料の製造と処理に関する国際会議 (THERMEC' 2009) に出席	2009/8/23	2009/8/30	受託研究費
教授	伊野 義博	中国	中国貴州省トン族の民族音楽調査	2009/8/24	2009/9/2	基盤教育経費
准教授	石垣 健二	米国	国際スポーツ哲学会への参加, 他	2009/8/25	2009/9/2	科研費若手B
准教授	佐藤 亮一	イタリア	2009電磁気学の発展的対応に関する国際会議で発表	2009/9/10	2009/9/16	寄付金・基盤研究経費・教育研究活動等支援経費
准教授	麓 慎一	ロシア	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2009/9/19	2009/9/26	科研費基盤研究B
准教授	相庭 和彦	韓国・中国	平成21年度科学研究計画書にもとづく国外調査	2009/9/19	2009/9/24	科研費基盤研究B
教授	藤村 正司	連合王国	英国における高等教育機会の拡大・不平等と学生支援政策にかかる調査	2009/9/19	2009/9/27	平成21年度文部科学省先導的・大学改革推進委託事業
准教授	佐藤 亮一	インド	JST戦略的国際科学技術協力推進事業「日本-インド研究交流」による共同研究	2009/9/22	2009/9/30	受託研究費
教授	福原 晴夫	中国	溪流河川, 湖の生物調査	2009/10/3	2009/10/11	科研費基盤研究B
准教授	足立 幸子	フランス	経済協力開発研究所国際学力調査国際読解力専門委員会に出席	2009/10/5	2009/10/11	オーストラリア教育評価研究所 (ACER)
教授	長岡 成夫	米国	アメリカ生命倫理学会に出席	2009/10/11	2009/10/19	本人負担
准教授	麓 慎一	ロシア	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2009/10/12	2009/10/18	科研費基盤研究B
准教授	下保 敏和	中国	国際会議第3回アジア精密農業会議 (3ACPA) に参加	2009/10/14	2009/10/18	本人負担
准教授	興治 文子	タイ王国	ICPE国際会議においてICT活用AL型物理教育の研究結果を講演, 他	2009/10/17	2009/10/24	科研費若手B
准教授	柳田 多美	米国	ISTSS (国際トラウマ学会) 第25回アトランタ大会で発表	2009/11/5	2009/11/9	本人負担



職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	トルコ	国際スポーツ連盟 (FISU) 実行委員会に出席	2009/11/10	2009/11/16	渡航費：国際大学スポーツ連盟及び日本オリンピック委員会 滞在費：国際大学スポーツ連盟
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校での中日教育フォーラム出席と北京師範大学教育学院、北京師範大学実験学校ならびに北京聯合大学訪問	2009/11/11	2009/11/17	学長裁量経費
教授	森田 龍義	中国	北京師範大学珠海分校での中日教育フォーラム出席と北京師範大学教育学院、北京師範大学実験学校ならびに北京聯合大学訪問	2009/11/11	2009/11/17	教育学部裁量経費、 基盤教育経費
准教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学珠海分校での中日教育フォーラム出席と北京師範大学教育学院、北京師範大学実験学校ならびに北京聯合大学訪問	2009/11/11	2009/11/18	学長裁量経費
准教授	上石 圭一	中国	北京師範大学珠海分校での中日教育フォーラム出席と北京師範大学教育学院、北京師範大学実験学校ならびに北京聯合大学訪問	2009/11/11	2009/11/18	学長裁量経費
准教授	杉澤 武俊	中国	北京師範大学珠海分校での中日教育フォーラム出席と北京師範大学教育学院、北京師範大学実験学校ならびに北京聯合大学訪問	2009/11/11	2009/11/18	学長裁量経費
教授	伊野 義博	中国	北京師範大学珠海分校での中日教育フォーラム出席と北京師範大学教育学院、北京師範大学実験学校ならびに北京聯合大学訪問	2009/11/11	2009/11/18	学長裁量経費
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学珠海分校での中日教育フォーラム出席と北京師範大学教育学院、北京師範大学実験学校ならびに北京聯合大学訪問	2009/11/12	2009/11/17	学長裁量経費
准教授	渡邊 道之	台湾	成功大学のセミナーで講演、他	2009/11/18	2009/11/22	科研費基盤研究B 教育活動等支援経費
教授	五十嵐 由利子	韓国	第32回 人間－生活環境系シンポジウム及びKorea-Japan Joint Sympojium on Human-Environment System に出席	2009/11/27	2009/11/30	本人負担
准教授	足立 幸子	米国	米国読書会議 (National Reading Conference) 年次大会に出席	2009/12/1	2009/12/6	科研費若手B
准教授	山口 智子	連合王国	4 th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2009) に出席	2009/12/4	2009/12/13	科研費若手B
准教授	柳 沼 宏 寿	フランス	地域美術論 (フランス美術研修) のための学生引率	2009/12/8	2009/12/17	基盤教育経費、基盤研究経費 美術科共通経費
教授	郷 晃	フランス	地域美術論 (フランス美術研修) のための学生引率	2009/12/8	2009/12/17	基盤教育経費 美術科共通経費
准教授	麓 慎一	ロシア	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2009/12/8	2009/12/13	科研費基盤研究B

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
准教授	小野 映介	ラオス国	ラオス農村における自然環境(地形・水文)調査	2009/12/22	2009/12/30	先方負担 科研費基盤研究A 代表: 関西大学 野間晴雄
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院とダブルディグリー制度導入に関する打合せ	2009/12/25	2009/12/28	教育学部裁量経費, 基盤教育経費
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学珠海分校教育学院とダブルディグリー制度導入に関する打合せ	2009/12/25	2009/12/28	教育学部裁量経費, 基盤教育経費
准教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学珠海分校教育学院とダブルディグリー制度導入に関する打合せ, 他	2009/12/25	2009/12/30	教育学部裁量経費 科学研究経費分担 基盤B
准教授	麓 慎一	中国	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2010/1/5	2010/1/12	科研費基盤研究B
准教授	牛山 幸彦	中国	中国プロ卓球選手のプレー中における運動強度測定	2010/1/20	2010/1/27	受託研究費
准教授	世取山 洋介	スイス	国連子どもの権利委員会傍聴, 他	2010/1/24	2010/2/5	基盤教育経費, 基盤研究経費, 教育研究活動等支援経費
教授	横坂 康彦	米国	国際交流事業の打ち合わせ及び芸術活動の視察と資料調査	2010/1/31	2010/2/7	基盤研究経費, 基盤教育経費
准教授	麓 慎一	韓国	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2010/2/18	2010/2/23	科研費基盤研究B
准教授	中村 文隆	米国	バージニア大学Zhi-Yun Li教授との星形形成に関する研究打ち合わせ	2010/2/18	2010/3/10	渡航費: 基盤研究経費 滞在費: 宇宙研究開発機構の客員公費
准教授	田中 幸治	米国	米・サスケハンナ大学音楽学部におけるピアノアンサンブル(2台ピアノ)教育の視察, 2台ピアノ演奏会の開催	2010/2/26	2010/3/6	渡航費: インセンティブ経費 滞在費: サスケハンナ大学
准教授	神村 栄一	韓国	日本行動療法学会事例検討会「行動療法コロキウム」で発表	2010/3/3	2010/3/8	本人負担
准教授	興治 文子	米国	CST事業におけるアメリカでのITを活用した理科教育の視察・情報交換	2010/3/9	2010/3/18	受託事業費
教授	鈴木 恵	中国	中日小学校教育問題検討会に出席	2010/3/19	2010/3/22	本人負担
准教授	石垣 健二	連合王国	英国スポーツ哲学界への参加およびカーディフ大学での資料収集	2010/3/22	2010/3/30	基盤研究経費

## 7 附属施設の活動

### 7.1 附属新潟小学校

#### (1) 特色ある活動

##### ① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成 - 3年次研究-」の下で、指定研究授業（17回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。その成果は、全国各地から1,500名程の参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要 第67集 子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成」（年1回発行）、研究ブックレット「学習スキル」、研究誌「授業の研究（F・ねっと）」（年3回発行）、明治図書より「『学級力』で変わる子どもと授業」を出版し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。



学級力の取り組みで培われた明るい雰囲気



学ぶことに価値を見いだす子ども

##### ② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受け入れは次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生12名,6月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生67名,9月8日～12日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生, 医療福祉大42名）
- d. 秋期教育実習（3・4年生, 別科生, 県短大, 日本女子大40名）
- e. 教育研究実習（3年生6名）
- f. 学校インターンシップ（院生1名,4月～3月）

##### ③ 文部科学省研究指定校としての取組

平成19年度から指定を受け、今年度は指定3年目にあたる。研究開発課題は「『学習スキルの時間』を新設した9カ年指導プログラムとしての教育課程と指導方法の研究開発」である。年度末には、研究開発実施報告書並びに資料を製作し、関係諸機関、県内各校に配布し成果を広く伝えている。

##### ④ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では「知を求め共生の心をもつ創造性豊かな子どもの育成」を共通の教育理念と

して掲げ、「軽度発達障害児教育研究班」「附属新潟小・中学校教育課程研究班」「附属養護学校教育課程研究班」「異文化交流研究班」の四つの研究班を発足させ、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における今年度の主な取組は以下のとおりである。

**a. 小中9か年を見通した教育活動**

- ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を実施。

**b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動**

- ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動 全12時間。
- ・展覧会での特別支援学校作品の展示。
- ・小学校「附属ミュージックステーション（音楽会）」での中学校1年生の合唱発表（11月28日）

**c. 異文化交流活動**

- ・総合的な学習の時間を活用し、新潟大学留学生や地域における外国の方との交流を行い、外国の文化や考え方等についての理解を深めた。
- ・北京師範大学実験小学校と交流締結を行っている。今年度は7月に実験小学校の教師7名と児童11名計18名が附属新潟小学校を訪れ、交流を行った。10月には当校職員が実験小学校を訪問し、授業を行った。3月には父母教師会（PTA）役員と職員が実験小学校を訪問し、交流を深めた。

**④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組**

- ・体育や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。
- ・児童の生活実態調査結果を踏まえて、学校保健委員会において取組について検討を行った。
- ・健康教育の組織的な推進の在り方について、初等教育研究会においてその理論と具体とを示した。

**⑤ 学びを生かした児童の主な活躍**

- ・NPO法人 地球子どもクラブ第13回小学生・中学生ポスターコンクール 文部科学大臣賞

**⑥ その他**

- ・当校教員の学部授業への参加 7名延べ11回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：8名延べ17回
- ・教員研修の受け入れ：初任者研修2回、内地留学1回、視察受け入れ3回
- ・学校評議員会の開催：第1回11月30日、第2回3月3日

**(2) 研究会、講演会の開催**

**② 平成21年度附属新潟小学校中間検討会**

- a. 日 時 2008年10月14日（水）
- b. 会 場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成 - 3年次研究 -」
- d. 内 容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明、協議、指導等）・教務研究主任会（研究概要の説明、意見交換）
- e. 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約90名

**③ 平成21年度初等教育研究会**

- a. 日 時 2010年2月4日（木）・5日（金）
- b. 会 場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成 - 3年次研究 -」
- d. 内 容 C C T・公開授業・全体会・授業協議会・フォーラム・講演  
講演：田中 博之（大阪教育大学教授） 演題：今こそ、子どもたちの学級力を育てる

e. 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,500名

### (3) 研究報告等

#### ① 紀要・研究誌

- a. 『研究紀要 第67集 子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成』（年1回発行）
- b. 『授業の研究（F・ねっと）』（第173号，第174号，第175号：年3回発行）
  - ・特集「新しい教育課程の創造 ～習得・活用の授業づくりと学級力～」
- c. 『「学級力」で変わる子どもと授業』 明治図書

#### ② 教員の著書・論文・研究発表

- ・ 中原広司「楽しいクラスをみんなで創る」『心を育てる学級経営』2009年8月 明治図書
- ・ 井上幸信「教科書単元でPISA型読解力を育むヒント」『子どもと創る国語の授業』2009年 月 東洋館出版社
- ・ 山本郁雄「面の形や大きさに着目させた立体図形の指導」『新しい算数研究』2009年12月
- ・ 萩野真美「小学校家庭科における教材の役割」『教材学研究』2010年3月 日本教材学会
- ・ 磯部征尊「試した表し方を整理した『評価事例』を用いて，つくりたい作品をつくる子どもの育成に関する研究」新潟大学教育学附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践総合研究』2009年

## 7.2 附属新潟中学校

### (1) 特色ある教育活動

#### ① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

##### a. 実践研究「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業」の推進

生徒が問題解決を図る際に発揮する思考技能を「学ぶ力」と定義し、「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業」という研究主題を掲げた。3年間の研究の中で、これからの社会をたくましく生き抜くために必要な「学ぶ力」を明らかにし、その「学ぶ力」を育むための手だてを検証した。

最終年次の今年度は、全教科で用いた「学ぶ力」と文部科学

省研究開発指定研究で取り組んだ「学習スキル」との融合を図り、「教科の枠を越えて発揮させる『学ぶ力』」を「思考スキル」と捉え直した。また、「学ぶ力」を発揮しようとする意識を「方略意識」と定義し、様々な状況に応じて、最善の「学ぶ力」を方略として選択し、それを活用して問題を解決していく生徒の育成を図った。

##### b. 文部科学省研究開発指定研究「小・中9か年を見通した学習スキルの形成」の推進

附属新潟小学校で行っている「学習スキル」を基にして、当校では「思考スキル」に焦点を当てて実践研究を行った。まとめの本年度は、学習指導要領の次期改訂に向け、「学習スキル」の取組を教育課程に位置付けるといった提言を行った。

##### c. 実践研究「国際学力の向上を目指した授業」の推進

3年生の選択教科にて年間35時間の枠の中で、PISA型「読解力」の調査で明らかになった課題の解決を目指す「国際学力」の時間を展開した。10月2日に当校で開催した「中学校教育研究発表会」では、授業公開を行った。

##### d. 交流活動の推進

ア. 中学校1年生と附属特別支援学校中等部生徒とのペアシステムによる交流活動

昨年度に引き続き、「発表会を成功させよう」という共通の目的をもって、一緒に音楽を演奏したり、踊りを創り上げたりする活動を行った。

イ. 中学2年生の「沖縄の旅」における交流活動

平成22年2月2日（火）～5日（金）に実施した2年生「沖縄の旅」では、民泊を2泊行った。生徒は、実際の沖縄での家庭生活を体験したり、家業の手伝いをしたりする中で、互いの文化の違いやよさを実感していくことができた。

#### ② 学部と連動した活動

##### a. 学校インターンシップの受け入れ

大学院生による学校インターンシップを受け入れ、実際の教育活動や学習活動に携わった。

##### b. 学部教員および学生との共同研究

ア. 国語科において受け入れ、授業研究を行った。

イ. 数学科においては、教育実習と学部講義「数学科教育法Ⅳ」を連動させて、研究教育実習にかかわる指導法の開発・実践を行った。

##### c. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 授業研究会では、11名の学部教員の方々から指導をいただいた。

イ. 中学校研究発表会では、協議会において、11名の学部教員の方々から指導をいただいた。

ウ. 冬の研究発表会では、協議会において、4名の学部教員の方々から指導をいただくとともに、1名の学部教員から協議会への参加をいただいた。

### ③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

附属新潟小学校と校舎が棟続きであることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

## (2) 教育実習

### ① 期日，受入人数

- |            |                    |              |
|------------|--------------------|--------------|
| a. 春期教育実習  | 6月8日（月）～19日（金）     | 26人（うち母校実習4） |
| b. 2年次観察実習 | 9月7日（月）～11日（金）     | 100人         |
| c. 秋期教育実習  | 10月24日（土）～11月6日（金） | 24人          |
| d. 1年次入門実習 | 年間3回合計3日間          | 12人          |
| e. 研究教育実習  | 社会科 2月23日（火）24日（水） | 15人，他国語科，数学科 |

### ② 特色ある実習内容

- 春期教育実習，秋期教育実習において，道徳の指導案を作成し，学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- 2年次観察実習において，同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

## (3) 研究会，講演会等の実施

### ① 授業研究会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業」）

- 5月～7月（各教科で日時を設定）全必修教科で授業研究を行った。全教科とも，学部教員や行政関係者が参観した。また，すべての教科において，公立校の教員も授業を参観し，協議会にも参加した。
- 9月14日（月）国語，社会，数学，音楽，美術，技術・家庭，英語の各教科で，学部教員や行政関係者，公立校の教員とともに，中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。
- 1月（各教科で日時を設定）国語，数学，理科，保健体育，英語の各教科で，学部教員や行政関係者，公立校の教員とともに，冬の研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

### ② 平成21年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業」）

- 期日 10月2日（金）
- 内容 授業公開（国語，社会，数学，音楽，美術，技術・家庭，英語，学習スキル，国際学力）  
授業協議会
- 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計305人

### ③ 平成21年度冬の研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業」）

- 期日 1月22日（金）
- 内容 授業公開（国語，数学，音楽，美術，英語，学習スキル，キャリア教育），授業協議会，講演会
- 講演会講師 永田潤一郎（文部科学省），相澤秀夫（宮城教育大学），森泉哲也（文部科学省），久保田善彦（上越教育大学），佐藤佐敏（上越教育大学），松沢伸二（新潟大学）
- 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計340人

### ④ その他

- 初任者研修授業研修協力校
  - 期日 6月23日（火）10月6日（火）
  - 参加者 下越教育事務所管内初任者 小学校9人，中学校6人  
下越教育事務所指導主事，当校職員
  - 内容 授業公開（各教科），研究協議，講話，演習
- 学校視察の受け入れ

宮城県大崎市立古川西中学校（2月10日）

(4) 研究報告等

① 研究誌

- a. 研究紀要 未来を拓く「学ぶ力」を育む授業（3年次） 公開授業案（10月2日発行）
- b. 研究誌 冬の研究発表会 公開授業案（1月22日発行）
- c. 平成21年度研究開発実施報告書（3月発行）

② 主な職員の著作・論文・研究発表等 <2010年4月～2011年3月>

- ・丸山明生 「言語活動の実際」2008.1.30附属新潟中学校冬の研究会公開授業を参考にした資料の紹介  
「3つの『合い言葉』でラクに泳ぐ」『楽しい体育の授業』明治図書  
免許更新講習会講師 「読解力」を高める取組講義
- ・中村雅芳 「要約力をつける授業」『新潟音読研究会記念誌 歩み』  
「マトリックスで理想の姿に」『エンカウンターで学級活動12ヶ月』2009.12 明治図書
- ・稲生一徳 『教育美術』2009.12月号,2010.1月号（財）美術教育振興会  
『エンカウンターで学級活動12ヶ月—1年—』2009.12 明治図書  
『エンカウンターで学級活動12ヶ月—2年—』2009.12 明治図書  
『エンカウンターで学級活動12ヶ月—3年—』2009.12 明治図書
- ・山本達也 「昭和恐慌」『知っておきたい新潟県の歴史』新潟日報社
- ・渡部智和 「数学科指導における「生徒の問題意識の触発」と「教師の働き掛け」の関係—中学3年  
題材「平行線と線分の比」の事例を中心として—」『数学教育4月号2009』明治図書  
「2次元分割表を用いた計算指導の工夫」『数学教育5月号2009』明治図書  
「日常の事象に数学を活用する問題にどう対応するか」『数学教育1月号2010』明治図書
- ・大岩樹生 免許更新講習会講師 「学習スキル」を高める取組講義



## 7.3 附属特別支援学校

### 1 特色ある活動

#### (1) 連携・交流活動

##### 【新潟地区附属三校交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童，中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部1～2年生児童と附属新潟小学校低学年及び高学年複式学級児童との授業交流（授業交流）

##### 【発達障害児教育】

- ・新潟地区附属三校と学部との連携による研究会議の運営
- ・学部教官研究室の関係者と研究授業協議会の実施
- ・新潟市特別支援教育サポートセンター主催支援会議への参加

##### 【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ6人
- ・教員免許状更新講習にゲストスピーカーとして参加2回，2人
- ・学生ボランティアの登録：登録56人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会15人，特別支援教育研究会41人  
すなやま祭13人，学部・学級行事33人

##### 【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月2回程度開催

##### 【地域との連携・交流活動】

- ・水と土の芸術祭に全校児童生徒の作品出品
- ・トキめき新潟大会開会式オープニングセレモニー全校児童生徒参加
- ・トキめき新潟大会競技出場（高等部生徒3人）
- ・トキめき新潟大会フロア－ホッケー交流大会参加（中学部生徒14人）
- ・医学祭作品展示
- ・新大なんでもスポーツプロジェクト出場（小学部3組5人）

##### 【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会（同窓会）の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。  
（5月10日開催。高等部生徒29人，卒業生61人，卒業生保護者9人，旧職員4人  
現職員17人，学生ボランティア4人参加）
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定  
（11月21日開催。卒業生52人，卒業生保護者5人，学生ボランティア13人参加）
- ・第3回すなやま会（2月7日開催。卒業生48人，卒業生保護者9人，学生ボランティア2人参加）

##### 【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ（すなやまの家を会場に提供）：延べ約2,000人利用

## (2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

### 【特別支援教室の開設】

- ・特別支援教室：新潟市内中学生19人週1回定期支援,2人不定期支援
- ・教育相談：定期（週1回程度）は5人, 不定期は多数

### 【教育相談・支援活動】

#### ○研究会・研修会講師等

- ・新潟市立巻東中学校等校内研修会講師（計7校）：今井 信郎
- ・児童保育施設ひまわりスタッフ研修会講師（計4回）：今井 信郎
- ・新潟市立桜が丘小学校等校内研修会講師（計2校）：武田 守広
- ・新潟市立牡丹山小学校等校内研修会講師（計2校）：関原 一成
- ・新潟市立宮浦中学校等校内研修会講師（計5校）：大竹 嘉則

## (3) 実習生・研修生の受け入れ

### 【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生12人（5月30日,6月24日,10月10日）
- ・教育実習生の受入（春期：13人 秋期：25人）
- ・養護教諭特別別科1日観察参加実習：45人（12月4日）
- ・研究教育実習：3人（ダンス支援, 卓球支援）
- ・介護等体験生の受入（年間10回, 合計300人）
- ・インターンシップの受入：3人
- ・内地留学生参観実習の受入：3人
- ・卒業論文協力：3人

### 【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（年間1回 合計16人）

## (4) 学校行事等

### 【学校行事】

- ・運動会
- ・学習発表会, 鑑賞教室
- ・現場実習等（高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定, 中学部：1～3日間）
- ・校内宿泊学習（全学部実施「すなやまの家」に宿泊）
- ・校外宿泊学習（中学部：柏崎市方面, 高等部：会津若松市方面）
- ・親子サマーレクリエーション（小学部P T A）
- ・もちつき大会（中学部P T A）
- ・スキー・そり教室（全学部）
- ・卒業生を送る会（全学部）

### 【P T A 保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校P T A 指導者研修会参加
- ・全国国立大学附属学校園 関東・北信越・東海地区P T A 研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校4校P T A 懇談会参加
- ・全附連北信越地区研修会松本大会特別支援学校部会参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

## 【学校評議員会】

- ・学校評議員会の開催 年間3回

## 2 研究会、公開講座の開催

### (1) 研究会

- ・第32回特別支援教育研究会（10月23日開催）

研究主題：確かな社会参加を実現するための連携を生かした授業づくり（第3年次）

参加者数：332名

### (2) 公開講座

- ・第1回公開講座：3日にわたり3回（6月8日,6月22日,7月22日）開催

テーマ：「新潟大学方式 親のスキル訓練2009」

講師：教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 教授, 参加者数：30人

- ・第2回公開講座：7月4日開催

テーマ：「就労・自立を目指した特別支援教育の在り方」

講師：日本発達障害ネットワーク 山岡 修副代表, 参加者数：100人

## 3 研究報告等

### (1) 研究会開催にかかわる実践発表

- ・研究紀要 第32集「確かな社会参加を実現するための連携を生かした授業づくり（第3年次）」

### (2) 執筆依頼等に応じた実践発表

- ・神田 裕子「特別支援教育研究」～教育・福祉・家庭との連携を生かして～ 東洋館
- ・疋田 敦士「自閉症児教育」～見通しや期待感をもって余暇を楽しむ～ 明治図書

## 7.4 附属長岡小学校

### (1) 特色ある活動

#### ① 初等教育研究の推進

「生きて働く力としての新たな概念、認識、価値観を創りあげる子ども」の姿を求め、「創造的な知性を培う」第2次研究・第3年次研究を推進した。

平成23年度の新学習指導要領完全実施を控え、「確かな学力」をはぐくむため、「習得」や「活用」と「探求」を関連づけて指導するカリキュラム編成と授業改善が課題となっている。こうした教育界の動向も踏まえ、「創造的な知性を培う」第2次研究・第3年次研究を進めてきた。その内容は、「学習内容の核に対する見方をとらえ直す更新」と「更新された見方をもとに、知識・技能を整理したり関係づけたりする再構成」を図る学びを通して、「納得のいくわかり」にまで高めるカリキュラムの編成と授業の改善である。

カリキュラム改善については、「生きて働く力」に向かう中心となる資質・能力を幼小中の段階制を踏まえて設定すること、授業改善については、「納得のいくわかり」を生むための「更新」「再構成」を促す各教科等における働きかけの要件を授業研究を通してより具体化することを課題として研究を進め、10月の研究協議会で発表した。

#### ② 教育実習生の受け入れと指導

- |                      |     |               |
|----------------------|-----|---------------|
| a. 入門教育実習（1年生        | 11名 | 7月9日、7月15日）   |
| b. 観察参加実習（2年生        | 63名 | 9月7日～9月11日）   |
| c. 春期教育実習（3・4年生及び別科生 | 25名 | 6月8日～6月19日）   |
| d. 秋期教育実習（3・4年生及び別科生 | 21名 | 10月26日～11月6日） |

#### ③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年1回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

- a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、職員  
の協力

- ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
- ・児童会行事等における園児、児童の交流
- ・昼休みの交流

- b. 中学校との連携……教員、児童生徒の授業交流

- ・小学校の授業（音楽、家庭科、生活科、体育）に中学校教員や中学生が参加、一緒に活動
- ・中学校教員が小学校の算数授業にTTで参加



昼休みに幼稚園児と楽しく交流

#### ④ 大学・学部との連携

- a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童向けの授業実践

3名の大学教員が、延べ5回にわたって授業実践された。（算数、学級活動）

- b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開

3名の大学教員が、研究会当日、授業公開された。（音楽、外国語活動）

- c. 学部生による指導補助

4、5、6年児童が、体育科・滝澤研究室の学生から、延べ5回にわたって体操の指導を受け、成果

を12月5日の「体操発表会」(主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館)で披露した。また、5、6年生のスノースクール(2月)では、体育科・大橋研究室の学生10名から、指導を受けた。

d. 5年生の親子大学訪問

大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数(52名87%)。



副学長、学部長の歓迎をいただいた  
大学訪問

⑤ 教育機関との連携

a. 県教育委員会との連携

小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。

(6月小学校初任者10名、9月中学校初任者12名)

免許状更新講習会のゲストスピーカーとして協力

(国語、算数、理科 4名)

b. 長岡市教育委員会との連携

教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート 錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。(音楽科、算数科)

長岡市教育センター主催の研修講座の講師として協力した。(情報モラル、算数等)

c. 公立学校との連携

小千谷市の公立小学校校内研修会に、職員が講師として参加した。(算数 2名)

⑥ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、家庭科の授業で、T. T. で参加した。

学級指導、総合的な学習の時間や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パクンパワーボックス」(食育に関する質問箱)の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 授業実践

「202 学校一の給食準備と後片付けの達人になろう」

(2年生 学級活動・食育)

「マル秘作戦で苦手な食べ物を食べられるようにしよう」

(5年生 学級活動・食育)

「すごいぞ、工夫がいっぱい附小の給食」

(3年生 総合的な学習の時間)

「生活を見直そう～朝食の大切さを知ろう～」(6年生 家庭科)

c. 栄養教諭による講話等

・毎月1回 中学生への食育講話

・毎月19日の「食育の日」に食育放送(給食時)

・学級担任への食育資料提供

(2) 研究会、講演会等の開催

① 平成21年度初等教育研究協議会事前打合せ

a. 日 時 2009年9月24日(木)

b. 会 場 附属長岡小学校

c. テーマ 「創造的な知性を培う」(第2次研究 第3年次)

- d. 内 容 全体会（研究全体概要の説明） 及び 分科会
- e. 参加者 指導者、司会者、研究協力者

② 平成21年度初等教育研究協議会

- a. 日 時 2009年10月16日（金）
- b. 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- c. テーマ 「創造的な知性を培う」（第2次研究 第3年次）
- d. 内 容 全教科等の授業公開、授業協議会および教育講演会
  - 授業 「生きて働く力としての新たな概念、認識、価値観を創りあげる授業」
  - 講演 「選べる講演会」
    - 新潟大学名誉教授・前新潟青陵大学大学院教授 間藤 侑 氏  
「幼児教育へのあとがき」
    - 上智大学教授 奈須 正裕 氏  
「子どもが自ら学びを深める授業づくり」
    - 国立教育政策研究所・学力調査官、教育課程調査官 樺山 敏郎 氏  
「知識や技能を習得し、活用・探究する学習指導の創造」
- e. 参加者 県内外の教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、当校教員等  
約500名（小学校）

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 創造的な知性を培う 第2次研究第3年次』（年1回発行）
- b. 『子どもと授業』（年2回発行 発行部数850部 購読者数600名 ）
  - 第63号 特集「新教育課程の全面実施に向けて～どうする？ 幼・保・小の連携～」
  - 第64号 特集「新教育課程の全面実施に向けて～子どもの問題意識をつなぐ～」

② 教員の著書・論文・研究発表等

- a. 高橋 喜一郎  
文部科学大臣優秀教員表彰
- b. 佐藤 浩一  
研究発表「子どもが読んで考える楽しさを味わう読書感想文の書かせ方」  
中越国語教育研究会 2010.1
- c. 平澤 林太郎  
研究発表「小学校3年理科におけるエネルギー変換の基礎を培う授業デザイン」  
日本理科教育学会全国大会 2009.8  
論文発表「創造力を発揮するものづくりの授業デザイン～3年『風のはたらき』の学習を通して～」  
『初等理科教育』2009.9月号  
論文発表「3年『物と重さ』における質量保存の基本的な見方を獲得させるための導入の工夫」『楽しい理科授業』2010.2月号  
論文発表「同期型CSCLを利用した遠隔学習における他者の認識のモニタリングに関する研究」  
日本科学教育学会『科学教育研究』2009, Vol.33, No.4
- d. 丸山 悦子  
新潟県生活科・総合的な学習研究会 第22回研究大会にて実践発表 2010.1
- e. 佐藤 満

論文発表「特集 日本の算数教育を支える 国立附属小学校の算数研究部」

『算数授業研究』66号 東洋館 2009

(4) その他

① 危機管理に対する活動

- a. 不審者侵入対応避難訓練（6年目）  
職員の対応訓練と児童の避難訓練  
（指導・協力：長岡警察署生活安全係）
- b. 緊急電話連絡・メール配信による児童引渡し訓練
- c. 防犯用携帯ベル支給（新入児童全員）
- d. 水泳授業監視員の配置

② いじめ防止に関する活動

- a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

- a. 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA組織の活性化

- a. 父親の参加を促す事業

「日曜参観」、「附属百年の森整備作業（178名参加）」、「地域懇談会」



大勢の父親が参加した日曜参観、附属百年の森整備作業

## 7.5 附属長岡中学校

### (1) 特色ある活動

#### ① 教育研究の推進

＜研究開発課題「創造的な知性を培う」実践研究（6年間）のまとめ＞

今年度は、研究主題「創造的な知性を培う」実践研究のまとめの年となった。これまでの研究の成果を整理しつつ、新学習指導要領への意向を踏まえ、より公立校に研究成果が還元できるように、以下を研究課題とした。

#### ■研究課題

- ① 「創造的な知性を培う」ための「学習過程」モデルにおける4つの働きかけの意図や具体的な手だて、そしてその働きかけの効果を整理する。
- ② 第2次研究第1年次研究で明らかになりつつあった「学びの汎用的な活用」について、「学習の転移」の視点から整理し、モデル化を図る。
- ③ 新学習指導要領に示された「習得・活用・探究」および「言語活動の充実」のあり方を、「創造的な知性を培う」ための「学習過程」モデルに位置付け、公立校の実践に資する。

上記の課題に取り組んだ結果、以下のような成果が得られた。

#### ■成果

- ①について・・・各教科等において、「学習過程」モデルにおける4つの働きかけ＜焦点化＞、＜視点の転換＞、＜協働＞、＜自己化＞の一つに研究の重点を当てて追究した。これにより、それぞれの働きかけの意義を以下のように整理し、効果を確認することができた。

##### ○＜焦点化＞

〔場面〕 単元や題材の導入場面、すなわち学習対象や教材との出会いの場面において、

〔手だて〕 生徒がもっている知識や感覚と異なるものを提示することでギャップを感じさせたり、普段当たり前のこととしてとらえていることを実験などで見えやすくしたり、モデルを提示することで憧れや理想をもたせることで

〔効果〕 学習対象や教材との結びつきを強く感じ取り、意欲的に学習に向かう姿勢をつくる。

##### ○＜視点の転換＞

〔場面〕 単元や題材の追究過程で得た考えをさらに広げたり深めたりする場面において、

〔手だて〕 新たな発見を促す資料や得られた考えを揺さぶる問いかけをしたり、別の角度・観点から見ることを示唆する投げかけや活動を準備したり、比較・分類・実験など、課題を浮き彫りにする活動を組織したりすることで、

〔効果〕 生徒の探究心を刺激し、追究の視点を新たにもたせ、学習内容の本質に迫らせる。

##### ○＜協働＞

〔場面〕 生徒が個々に高めてきた概念、認識、価値観を互いに交流させる場面において、

〔手だて〕 交流する者（どのような概念、認識、価値観を持っているか）、交流させる事物や具体物（作品・表現、データ、意見等）、学習形態（ペア、少人数、学級全体）、交流方法（発表、討論、相談等）、記録方法（ワークシート、作図、評価カード等）を設定することで、

〔効果〕 自分の概念、認識、価値観に付加すべきものにきづいたり、とらえ直しに向かったりし、更に自分の概念、認識、価値観を高めることができる。

##### ○＜自己化＞

〔場面〕 単元や題材の週末場面（学習内容や方法、身につけた技能や考え方を振り返る場面）において、

〔手だて〕 学びの振り返り、具体的な活用場面の想起、追究する内容の設定などの活動によって、

〔効果〕 学びを寄り自分にひきつけ、自分のものとして身に付け直したり、他の場面に生かそうとするようになったり、系統的に位置付けたりすることができる。

- ②について・・・「学習の転移」に関する先行研究から、「学習過程」モデルを見直した。その結果①



にあげた4つの働きかけによって「学習の転移」の条件が「学習過程」に内在していることを見出した。これをもとに、「学びの汎用的な活用」（学習の転移）がより起こりやすくなるように「学習過程」モデルの各働きかけの手だてを工夫した。その結果、学習の転移の条件に合致する生徒の姿がこれまで以上に見られるようになった。

③について・・・「学習過程」モデルは、「習得・活用・探究」の考え方に合致しているものととらえ、そこに具体的な言語活動を位置付けた。「言語活動の充実」には、生徒が語るべき内容や方法をしっかり身に付けることが前提であるという考えのもと、「学習過程」の前半部分では「教科の言葉」を確実に習得する場面を位置付け、「学習過程」の後半部分では、それを用いて自他の概念、認識、価値観を交流する言語活動を設定した。生徒は活発な言語活動を行い、自己の概念、認識、価値観を深めていくことを確認できた。

これらの成果を10月16日に実施した教育研究協議会において、県内外の公立校・行政からの参加者に実践を通して発表した。教育研究協議会には、前年度と比較して約2倍の参会者を得、6年間の研究の成果について高い評価を受けた。

## ② 長岡附属校園一貫教育に向けた具体的な検討

次期「中期目標・中期計画」の確定に伴い、これまでの「附属長岡校園の将来を語る会」から前進させ、学部長を座長とする「附属長岡校園一貫教育検討委員会」を立ち上げ、附属長岡校園の特長を一層生かした教育創造に向けた具体的な検討に着手。12年間を一貫する附属長岡校園共通の教育理念・目標の下に、幼稚園・小学校・中学校の教職員が、子どものこれまでとこれからの育ちと学びに対して関心と見通しをもって、相互に連携・協働する学校づくりを

目指し、教育内容、教育施設、指導組織一体化への動きを開始。採択された学長裁量経費教育プロジェクト「『子どもの成長や発達をつなぐ』教育実践プロジェクト」もこの動きに合わせ、実践した。同時に文部科学省から平成22年度以降3年間の研究開発学校としての採択が決定し、「社会的知性」育成を核とした12年間を見通したカリキュラム開発の実践研究を今後推進。既に5回にわたる幼・小・中全職員による校園合同研修を開催。

## ③ 教育実習生への指導

教育の次代を担う学生への指導は大切な使命の一つである。今年度は下記の通りである。

- a 入門教育実習（1年次①12名6月26日 ②11名9月5日 ③11名11月11日）
- b 春期教育実習（3・4年次、別科生、他大学 計22名 6月8日～6月19日）
- c 観察参加実習（2年次 計84名 9月7日～9月11日）
- d 秋期教育実習（3・4年次、別科生、他大学 計25名 10月26日～11月6日）
- e 「学校インターンシップ」受け入れ：「中学校歴史分野」授業研究10月～2月

## ④ 地域・PTAとの連携

- a 各学年の遠足での協力（4月27日）

1年生は蓮華寺大杉公園、2年生は越後丘陵公園、3年生は大平森林公園へ保護者も参加。年度始めの学年のまとまりを求めて、学年・学級の親睦やレクリエーションなどを行う。

- b 専門委員会や学年部主催の取組

PTAが主体となって、1学年部「親子レク：コーディネートトレーニング」、2学年部「校内整備作業」、3学年部「食育講演会と給食試食会」を開催。保体委員会は「運動に親しむ会」、教養委員会は「ニューヨークフィル・ティーチング・アーティスト」による親子で聞く音楽会、生徒指導委員会は「地区PTA」と校外指導パトロール、会報委員会は「素心会報」の発行。

- c 三校園が連携した取組  
校園PTA役員会・交流会（5月）、校園ソフトボール大会（5月）、合同学校評議員会（9月）、校園運動会（9月）の実施。

⑤ その他

- a 学校評議員会を開催し、学校の取り組む状況等の意見や感想をもらう。  
第1回（6月15日）、第2回（9月18日）、第3回（10月28日）第4回（12月15日）  
第5回（3月9日） \*学校関係者評価委員会は昨年度に立ち上げ、先行実施。
- b 県教委主催の初任者研修への協力（6月2日国語・道徳,9月15日国語）
- c 研究団体及び学校への職員（講師）派遣（市教委主催研修会3名、学習指導センター4名、合唱コンクール審査1名、教育研究会研修講師2名、校内研修6名他）
- d 長岡市教育センター教員サポート錬成塾への協力 研修講師2名
- e 免許更新講習における指導者とゲストティーチャーとしての協力 指導者1名。ゲストティーチャー2名。

(2) 研究会・講演会

- ① 中間検討会（5月22日） 総論・各論の討議、授業研究の討議（各部会）
- ② 事前検討会（9月24日） 総論・各論・指導案の検討、研究会当日の分科会の運営等
- ③ 平成21年度教育研究協議会（10月16日）

「創造的な知性を培う」（第2次研究第2年次）

○選べる講演会；「幼児教育へのあとがき」 新潟大学名誉教授 間藤 侑 氏

「子どもが自ら学びを深める授業づくり」 上智大学教授 奈須正裕 氏

「知識や技能を習得し、活用・探究する学習指導の創造」

国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官 樺山敏郎 氏

○公開授業；国語（松木 満）、社会（高野文忠、関 拓也）、数学（灰野 仁、古川真哉）、理科（藤島 圭）、音楽（菊地雅樹）、美術（巻口礼子）、保健体育（山岸 力）、技術・家庭（松本浩嗣）、技術・家庭（野池知枝美）、英語（小林貴英）、道徳（神子尚彦）、健康教育（原栄都子）

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌

「研究紀要～創造的な知性を培う～第2年次研究第3年次～」 （年1回発行）

② 教員の研究発表、研究指定等

- a 小林 豊 「英語活動のつくり方・遊び方・楽しみ方」 （小千谷市教育委員会ほか）
- b 菊地雅樹  
・「校内合唱コンクール審査」 （中学校2校）  
・『1人ひとりが主体的に表現することを目指して』（連載）「音楽教育中学・高校版」（音楽之友社）  
・新潟県吹奏楽連盟表彰 長年にわたる吹奏楽の指導（10年間連続西関東大会出場）
- c 小林貴英  
・『英語授業実践例：みんなで、自由に話そう』「教科研究No.113」 （学校図書）  
・『語彙を身に付け、英語ワールドで快適ドライブ』「英語教育No.62」 （開隆堂）
- d 古川真哉 「数学的な活動の楽しさを味わわせる単元づくり」 （長岡市教育センター）

### ③ 生徒の科学賞

#### a いきいきわくわく科学賞2009

東北電力賞「カレーの染み抜き法 - 家庭でできる簡単な汚れ落としの方法 -」  
優秀賞2名 「目で見える大きさと実際の大きさの関係」「バイオメタノール製作」  
奨励賞7チーム

#### b 日本学生科学賞科学部門新潟県審査会 奨励賞3名, 努力賞10名

### (4) その他

#### a 北京師範大学海分校南奥実験学校との相互交流 \*中国側インフルエンザ流行。来日延期。

#### b A F S主催「21世紀東アジア青少年交流計画プロジェクト」による留学生との交流

#### c 学部生ボランティアによる夏季休業中の学習支援活動 5日間：参加学生延べ19名

#### d 生徒の活躍

- ◇ 西関東吹奏楽コンクールBの部 銀賞, 県アンサンブルコンテスト金賞
- ◇ 第39回新潟県ジュニア美術展 特賞, 県児童生徒絵画・版画コンクール牧田賞・特選2名, 「わたしの住むまち」絵のコンクール銀賞
- ◇ 作文「暁鳥 敏」賞 ジュニア中高生部門, 「原子力の日」記念作文コンクール入選
- ◇ 新潟県競書大会 読売新聞新潟支局長賞, 準特選5名
- ◇ 税についての作文 長岡税務署長賞
- ◇ 年読書感想文全国コンクール新潟県審査 優秀賞
- ◇ 県創造ものづくり教育フェア新潟県教育長賞, 全国大会優秀賞, お弁当コンクール優秀賞
- ◇ 創造アイデア ロボットコンテスト 授業内部門 北信越大会出場
- ◇ 全国中学校総合体育大会水泳・高飛込優勝, 板飛込第4位 県中学校体育連盟優秀選手賞
- ◇ 県中学校総合体育大会 柔道女子第3位, 女子4×100リレー第4位, 女子200M第7位
- ◇ 北信越総合体育大会 柔道女子第3位, 体操女子床第8位
- ◇ 新潟県書き初め大会特選, 附属長岡中学校優秀団体賞 等



## 7.6 附属幼稚園

### (1) 特色ある活動

#### ① 幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、同じキャンパス内に幼稚園、小学校、中学校があるという恵まれた条件の下で、「個性的で豊かな人間性をもつ子ども」を目指して、12年間の発達を視野に入れた教育に取り組んでいる。その実現のためには、子どもの「創造性を伸ばす」とことと「豊かな知性を育てる」ことが大切であると考え、連携研究主題を「創造的な知性を培う」と設定している。

平成15年度～18年度には、文部科学省研究開発学校（研究テーマ「創造的な知性と自然との共生の心を培う『科学的な感性、科学的なものの見方・考え方』をはぐくむ幼稚園・小学校・中学校の12年間を見通した教育課程の研究開発」）の指定を受けてカリキュラム開発ならびに実践と評価を行い、平成19年度には、その成果を『科学をつくりあげる学びのデザイン』（東洋館出版社）としてまとめることができた。

今年度は、校園共通の研究主題である「創造的な知性を培う」の第2次研究の第3年次にあたり、子どもが「知的好奇心・探究心」を働かせることができるような環境構成や援助の在り方を探ってきた第2年次の成果や課題をもとに、「友達とのかかわり合い」を通して、子どもたちがどのように「知的好奇心・探究心」を育てていくのか、そのための環境構成や援助はどうあるべきかを明らかにするために研究を進めてきた。

幼稚園研究主題：～遊びを通して、「知的好奇心、探究心」をはぐくむⅡ～

#### ② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| a 入門教育実習 | (1年生 22名 5月15日・26日、6月30日) |
| b 春期教育実習 | (3年生 8名 6月8日～19日)         |
| c 観察参加実習 | (2年生 11名 9月7日～12日)        |
| d 秋期教育実習 | (4年生 4名 10月26日～11月6日)     |

#### ③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」をはじめ、火災や地震を想定した「合同避難訓練」も行っている。

- |                             |
|-----------------------------|
| a 幼児と児童の遊びの交流               |
| b 観客型連携による相互訪問              |
| c 中学生の読み聞かせ、保育参観<br>小学生との遊び |
| d 年長児の小学校授業参観・合同単元開発授業      |
| e 研究授業・保育への教師の相互参観          |
| f 授業・保育交流                   |



12月8日合同単元開発授業

#### ④ 学部との連携

##### a 「音楽鑑賞会」

大学教員と学生による演奏会の実施



#### ⑤ 北京師範大学南奥実験学校との交流

- a 北京師範大学珠海分校・南奥実験学校訪問 2月19日～24日 予定  
新型インフルエンザのため中止

#### ⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として次の研修会を実施した。

\*新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（8名 11月26日～27日）

#### ⑦ 楽しい園行事

- |                                       |                                    |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| 4月：春の交通安全教室<br>こんにちはの会<br>チューリップ花絵づくり | 11月：収穫ふれあい祭り<br>さくひんてん             |
| 5月：悠久山春遠足                             | 12月：小学校なかよしフェスティバル<br>外国の方とのふれあい会  |
| 6月：プール開き<br>親子バス遠足（上越水族館）             | 1月：お正月お楽しみ会（餅つき）<br>お正月お楽しみ会（昔の遊び） |
| 7月：七夕会<br>動物ふれあいの日                    | お正月お楽しみ会（カルタ取り）<br>そり遠足（国営越後丘陵公園）  |
| 9月：校舎合同運動会                            | 2月：豆まき会                            |
| 10月：悠久山探検遠足<br>秋のお楽しみ会<br>柿もぎ柿さわし     | 3月：お別れ会                            |

## (2) 研究会、講演会の開催

### ① 平成21年度教育研究協議会

ア 開催日 平成21年10月16日（金）幼・小・中合同研究協議会

イ 会場 附属長岡校舎各教室・保育室・体育館等

ウ 内容 研究副題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、選べる講演会を開催する。

講演 新潟大学名誉教授 間 藤 侑 氏

演題 幼児教育へのあとかき～心理臨床からみた幼小期教育の創造～

講演 上智大学総合人間科学部教授 奈須正裕氏

演題 子どもが自ら学びを深める授業づくり

講演 国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官 樺山俊郎氏

演台 知識や技能を習得し、活用・探求する学習指導の創造

エ 参加者 幼稚園、保育所（園）、小学校教員 100名程度

### ⑦ 幼稚園視察の受入

県内幼稚園新採用教員 (11月)

滋賀県長浜市南郷里幼稚園 (1月)

北京師範大学南奥実験幼稚園 (2月) 新型インフルエンザのため中止

兵庫県教育委員会義務教育課 (3月)

### ⑧ 研究報告等

研究紀要「創造的な知性を培う」第2次研究第3年次

県国公立幼稚園研究集録



中学生との交流



上越水族館 親子バス遠足



お正月お楽しみ会親子餅つき



絵本ボランティア「おはなしポケット」



花いっぱいにな〜れ



外遊び

## 7.7 附属教育実践総合センター

### 1. 学内における教育・研究活動

#### 1-1. 新潟大学免許法認定公開講座

(「地域貢献」欄を参照)

#### 1-2. 体験的カリキュラムの開発研究 (第13年次)

(「特色ある教育活動」欄を参照)

#### 1-3. 公開シンポジウムの開催

テーマ	平成21年度「学習支援ボランティア」派遣事業の成果と課題
日時	12月5日(土) 午後1時30分～4時30分
会場	新潟大学教育学部
方法	新潟大学教育学部、新潟青陵大学、新潟市教育委員会の共催による。
概要	<p>開会挨拶：森田 龍義(新潟大学教育学部長、学校ボランティア派遣事業委員長)</p> <p>報告：①「学習支援ボランティア」派遣事業を実施して          神林 信之(新潟大学教育学部)          岩崎 保之(新潟青陵大学看護福祉心理学部)          永井 喜博(新潟市教育委員会学校支援課)</p> <p>②「学習支援ボランティア」として活動して-ボランティア学生から          佐藤 麻友(新潟大学教育人間科学部4年、(派遣先)新潟市立白山小学校)          小林 圭介(新潟大学教育人間科学部4年、(派遣先)新潟市立曾野木中学校)          青田 美香(新潟青陵大学看護福祉心理学部4年、(派遣先)新潟市立大野小学校)</p> <p>③「学習支援ボランティア」の派遣を受けて-ボランティア受入校から          浅野 秀之(新潟市立白山小学校教頭)          斎藤 保裕(新潟市立曾野木小学校教諭)          後藤 和広(新潟市立大野小学校教諭)</p> <p>④フロアから          討 論：今年度の成果と今後の課題をめぐって(グループ討論、全体討論)</p> <p>閉会挨拶：鈴木 恵(新潟大学教育学部副学部長)</p>
参加者	現職教員、学生、大学院生、大学教員、新潟市教育委員会関係者等、総計約120人
備考	平成21年度、新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として実施した。

### 2. 附属学校園との共同研究プロジェクト／研究会／研修会

#### 2-1. 1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究 (第11年次)

(「特色ある教育活動」欄を参照)

#### 2-2. 4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究 (第6年次)

(「特色ある教育活動」欄を参照)

概要	第2回学部FD「『研究教育実習』の現状と課題」を開催した。
対象	「研究教育実習」研究グループ教員等
報告者	<p>「研究教育実習」についての全体報告 事務局 岡野 勉(新潟大学教育学部)</p> <p>実践事例報告          ・家庭科における「研究教育実習」          高木幸子(新潟大学教育学部) 荻野真美(新潟大学教育学部附属新潟小学校)</p> <p>・数学科における「研究教育実習」          山田和美(新潟大学教育学部) 榎根 浩(新潟大学教育学部附属新潟小学校)</p>
期 日	平成21年12月21日(月)
人 数	学部教員、教育学研究科大学院生、教育学部学生 計19人
備考	平成21年度、新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として実施した。

### 3. センター専任教員の学部・大学院教育への参与状況

#### 3-1. 学部

「教育実践体験研究Ⅰ」、「教職入門」、「学校カウンセリング」など、計35科目

#### 3-2. 大学院

「キャリア教育特論」、「教育実践学特論」、「授業技量開発研究」など、計12科目

●修士論文の指導担当学生：1人。

### 4. センターの対外的な教育・研究活動状況

#### 4-1. 教育臨床部門の教員による公立学校等へのカウンセリング／コンサルテーション活動状況

概要	面接、電話、訪問、電子メールによって、現職教員や保護者などへカウンセリング（コンサルテーション）を行った。
期間	平成21年4月～平成21年9月現在
件数	のべ回数：17回（ケース数：13件）

#### 4-2. 教職相談室活動状況

概要	教員を目指す、主として学部3、4年生の相談に応じた。また、小論文、面接、模擬授業等の指導を行った。
期間	平成21年4月～平成22年1月現在
件数	回数：45回（学生数：のべ65人）

### 5. 報告書・研究紀要等の編集・発行

1. 新潟大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第8号
2. 「フレンドシップ実習」実施報告書（第13年次）
3. 1年次教育実習カリキュラム開発研究（第11年次）報告書
4. 「研究教育実習」実施報告書（第6年次）
5. 新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第7年次）
6. 平成20年度「学校インターンシップ」実施報告書（第4年次）

（註）教育実践総合センターは、平成21年9月30日をもって廃止された。平成22年度以降においては、教育学部内に設置された教員養成フレンドシップ事業推進室が、教育実践総合センターの事業の一部を継承する予定である。



## 8 外部資金

### 8.1 科学研究費補助金

教育学部は、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費補助金に積極的に申請を行っている。

【平成21年度科学研究費補助金の採択件数は、別表のとおり（継続分を含む）】

現在、科学研究費補助金の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。

研究種目	研究代表者氏名	研究課題名	平成20年度 交付額（円）
基盤研究（B）	麓 慎 一	19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策	2,800,000
基盤研究（C）	世取山 洋 介	子ども関連法制の新自由主義的再編に対する子どもの権利に基づく評価の比較的研究	900,000
基盤研究（C）	藤 村 正 司	大学の社会貢献事業の拡大過程とその効果に関する実証的研究	400,000
基盤研究（C）	佐 藤 亮 一	レーダボラリメトリによる山地帯における土砂崩壊地域および被災住宅地域の識別	500,000
基盤研究（C）	高 木 幸 子	教員養成カリキュラム開発のための授業力育成に関する基礎研究	300,000
基盤研究（C）	福 原 晴 夫	砂丘湖の富栄養化に及ぼす周辺農業の影響の解明と生態系保全対策	600,000
基盤研究（C）	松 井 賢 二	大学生のキャリア発達に応じたキャリア形成支援プログラムの開発研究	700,000
基盤研究（C）	児 玉 康 弘	地方の課題を歴史的に考察させるための郷土人物教育内容開発研究	700,000
基盤研究（C）	中 村 文 隆	原始星アウトフローにより生成される超音速乱流とその星団形成への効果に関する研究	700,000
基盤研究（C）	篠 田 邦 彦	高齢者の歩行能力を指標とした転倒予測マーカーの開発	800,000
基盤研究（C）	高 橋 桂 子	出産前後の女性の就業選択行動の分析：「やりがい感」を中心に	1,400,000
基盤研究（C）	上 石 圭 一	法曹人口論のポリティックスの歴史社会学的研究	600,000
基盤研究（C）	神 村 栄 一	パチンコ遊技への病的な嗜癖を示す成人に対する集団認知行動療法の効果検討	800,000
基盤研究（C）	八 嶽 友 広	テキスト学的視点による従来物の変容過程に関する研究	700,000
基盤研究（C）	長 澤 正 樹	広汎性発達障害者のソーシャルスキル認識の解明と自己評価プログラムの開発	2,200,000
基盤研究（C）	長谷川 敬 三	コンパクトおよび非コンパクト等質空間上の複素構造についての研究	500,000
基盤研究（C）	鈴 木 賢 治	結晶弾性異方性と微視的残留応力に関する研究	2,100,000
挑戦的萌芽研究	麓 慎 一	露米会社の極東経営と北方世界	600,000
挑戦的萌芽研究	加 藤 茂 夫	アクセント英語理解度と英語習熟度の関連性の検証	200,000
挑戦的萌芽研究	中 村 和 吉	界面活性剤の基質表面における吸着現象の解明	3,100,000
若手研究（B）	石 垣 健 二	「他者との身体的地盤を生成する体育」の理論的根拠に関する研究	500,000
若手研究（B）	足 立 幸 子	知識基盤社会における読書力を評価するマイクロ・レベル・テスト及び質的分析手法の開発	900,000
若手研究（B）	山 口 智 子	食料自給率向上につなげる米粉と地域特産野菜を活用した高機能性食品に関する研究	2,200,000
若手研究（B）	興 治 文 子	いつでも、どこでも、誰もが参加できるユビキタスラーニングを活用した理科教育の構築	1,500,000
若手研究（B）	小 野 映 介	埋蔵文化財情報を利用した高精度の地形発達史研究	1,500,000
若手研究（B）	角 谷 聰	宋代詩文中の「三国志物語」を手がかりとした『三国志演義』形成過程の研究	400,000
若手研究（B）	和 田 信 哉	探究的な算数・数学の授業における推測の段階に関する研究	500,000
若手研究（B）	工 藤 起 来	アシナガバチ亜科におけるサテライト巣建設の進化	140,000
若手研究（B）	渡 邊 道 之	非線形偏微分方程式の未知係数同定逆問題の再構成理論について	500,000

## 8.2 奨学寄附金

奨学寄附金は、個人篤志家や民間企業など各方面から寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実・発展、学生の奨学支援などに活用し、人材養成や地域貢献するなどして、社会に還元奉仕するものである。

平成21年度における奨学寄附金の受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄 付 者	目 的	寄附金額
佐藤 亮一	財団法人 テレコムエンジニアリングセンター	教育・学術研究助成のため「マイクロ波リモートセンシングによる湿地帯水域観測のための偏波散乱測定に関する調査研究」	1,000千円
高清水 康博	高清水 康博	平成21年度笹川科学研究助成における研究助成	640千円
鎌田 正喜	財団法人 内田エネルギー科学振興財団	鎌田正喜における研究助成	400千円
横山 知行	財団法人 メンタルヘルス岡本記念財団	精神疾患により長期病休・休職した教師に対しラインケアを行う上で有用なメンタル評価に対する研究に対する助成	300千円
佐藤 亮一	佐藤 亮一	「2009電磁気学の発展的応用に関する国際会議」出席のための海外渡航助成	200千円
丹治 嘉彦	丹治 嘉彦	水と土の芸術祭、作品制作のため	1,800千円
上石 圭一	財団法人 学術振興野村基金	「市民の問題処理行動にとって、自治体の相談窓口が果たしている役割とそのための課題に関する実証研究」に対する助成	350千円

## 8.3 受託研究・受託事業

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて行う研究及び事業である。

### ○受託研究

研究担当者	委 託 者	研 究 題 目	受託金額
牛山 幸彦	(財)日本卓球協会	卓球競技の戦術における科学的分析	700千円
小谷 スミ子	新潟市	米粉高付加価値化商品開発事業	500千円
鈴木 賢治	(株)インテリジェント・コスモス研究機構	平成21年度高経年化対策強化基盤整備事業(経年劣化事象の解明等)	4,360,667千円
山口 智子	新潟市	米粉高付加価値化商品開発事業	750千円
横山 和行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰支援に関する研究	1,770千円
山崎 健	新潟市	8大学連携事業(健康づくり推進研究業務)	200千円
笠巻 純一	新潟市	8大学連携事業(健康づくり推進研究業務)	200千円
小谷 スミ子	新潟市	8大学連携事業(地産地消推進のための調査研究及び実証業務)	338千円
山口 智子	新潟市	8大学連携事業(地産地消推進のための調査研究及び実証業務)	405千円
高木 幸子	新潟市	8大学連携事業(食育指導教材・プログラム開発業務)	300千円
高木 幸子	新潟市	8大学連携事業(食育指導教材・プログラム開発業務)	375千円
山口 智子	阿賀町雪椿活用推進協議会	雪椿製品のビジネス展開に必要な研究と安定供給に関する研究	224,070千円
山口 智子	阿賀町雪椿活用推進協議会	雪椿製品のビジネス展開に必要な研究と安定供給に関する研究	175,930千円

○受託事業

事業担当者	委託者	事業題目	受託金額
興 治 文 子	(独) 科学技術振興機構	平成21年度理数系教員養成拠点構築事業	5,615.945千円

・共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関と共同で行う研究である。

○共同研究

研究担当者	共同研究相手方	研究題目	受入金額
小谷スミ子	(株) タイナイ	HPMC添加米粉パン関連商品の開発	400千円
小谷スミ子	(財) にいがた産業創造機構	食の高付加価値化に資する基盤技術の開発	2,990千円
山口 智子	(株) 竹林味噌醸造所	味噌漬を使った新規食品の開発	420千円
小谷スミ子	(株) タイナイ	新潟米で作った米パン粉に関する技術開発	1,260千円

## (巻末資料)

## 平成21年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	144	130	53	43
		教育心理学専修					
		幼児教育専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	489	449	162	139
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
		音楽教育専修					
	美術教育専修						
	保健体育専修						
推 薦 入 学	40	57	57	40	40		
小 計	220	690	636	255	222		
学習社会ネットワーク課程		45	247	163	52	50	
学習社会ネットワークコース							
生活科学課程		15	46	46	23	16	
生活科学コース							
健康スポーツ科学課程		30	206	171	33	30	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	53	53	28	26	
	造形表現コース	20	84	56	25	24	
	書表現コース	15	55	51	16	16	
	小 計	60	192	160	69	66	
合 計		370	1,381	1,176	432	384	

平成21年度 新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
学校教育	学校教育学分野	10人	9 (2)	9 (2)	9 (2)	7 (2)
	教育心理学分野		0	0	0	0
	臨床心理学分野		13	12	8	5
	特別支援教育分野		1	1	1	1
	幼児教育分野		0	0	0	0
	教育実践開発コース	10人	4	4	4	4
	小計	20人	27 (2)	26 (2)	22 (2)	17 (2)
教科教育	国語教育専修	32人	10 (1)	9 (1)	8 (1)	4 (1)
	社会科教育専修		3 (1)	3 (1)	2	2
	英語教育専修		1	1	0	0
	数学教育専修		6	6	6	4
	理科教育専修		4	4	4	4
	音楽教育専修		5 (1)	5 (1)	3 (1)	3 (1)
	美術教育専修		11 (2)	11 (2)	8 (1)	8 (1)
	保健体育専修		6	5	5	5
小計	32人	46 (5)	44 (5)	36 (3)	30 (3)	
合計	52人	73 (7)	70 (7)	58 (5)	47 (5)	

※ ( ) 内数字は、外国人留学生で内数

# 平成22年3月卒業(修了)者の就職内定状況

## (1) 教育人間科学部

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教育課程	195	26	7	9	108	45	162	9	91	41	141	100.0	84.3	91.1	87.0
学習社会ネットワーク課程	70	3	1	8	2	56	66	8	1	53	62	100.0	50.0	94.6	93.9
生活環境科学課程	42	3	4	8	7	20	35	8	6	19	33	100.0	85.7	95.0	94.3
健康スポーツ科学課程	34	6	1	4	4	19	27	4	3	18	25	100.0	75.0	94.7	92.6
芸術環境創造課程	65	11	6	0	14	34	48	0	9	33	42	-	64.3	97.1	87.5
計	406	49	19	29	135	174	338	29	110	164	303	100.0	81.5	94.3	89.6

平成22年3月31日現在

## (2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教育専攻	15	2	1	1	8	3	12	1	8	3	12	100.0	100.0	100.0	100.0
教科教育専攻	32	3	3	0	19	7	26	0	19	6	25	-	100.0	85.7	96.2
計	47	5	4	1	27	10	38	1	27	9	37	100.0	100.0	90.0	97.4

## (3) 養護教諭特別別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
養護教諭特別別科	44	2	2	4	16	20	40	4	11	18	33	100.0	68.8	90.0	82.5

### 教育学部附属学校生徒数

21.5.1現在

校 園 名		学級数	1 学級定員	収容定員	現 員
幼 稚 園	3年保育	3	35	90	68
新 潟 小 学 校		12	40	480	471
	複式学級	3	16	48	48
長 岡 小 学 校		12	40	480	419
新 潟 中 学 校		9	40	360	356
長 岡 中 学 校		9	40	360	358
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	18
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	30
合 計		57		1,878	1,786